公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第728集

土塩中原遺跡

（一）長久保郷原線（上増田工区）社会資本総合整備
（防災・安全）（交安・重点）事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第728集
土塩中原遺跡
（一）長久保郷原線（上増田工区）社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
2023
群馬県安中土木事務所　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

土塩中原遺跡

（一）長久保郷原線（上増田工区）社会資本総合整備
（防災・安全）（交安・重点）事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

県道長久保郷原線は、安中市松井田町土塩付近から同町小日向付近を通る県道です。県道沿線にある小学校や中学校の児童・生徒が通学路に利用するなど、地域住民の大切な生活道路でもあります。

群馬県は、道路を利用する歩行者や自転車の安全な通行を確保するための取り組みの一環として、同県道の松井田町上増田地区において歩道整備事業を実施することになりました。

土塩中原遺跡は、この歩道整備事業に伴い令和４年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査しました。本報告書は、その調査成果をまとめたものです。

発掘調査により、縄文時代では遺物の集中した場所や土坑・ピットが検出され、前期の土器や石器が多数出土しました。平安時代では、調査区の広い範囲から復旧坑が検出されました。復旧坑は、1108年に噴火した浅間山の火山灰で被災した畑を復旧した遺構で、平安時代の人々による災害復興の様子が解明できました。

発掘調査から整理作業、そして報告書の刊行に至るまで、群馬県県土整備部、群馬県安中土木事務所、群馬県地域創生部、安中市教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なご協力とご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり衷心より感謝申し上げます。

本報告書が地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願い、序とします。

令和５年７月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　言

1．本書は、(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴い、令和４年度に発掘調査された土塩中原遺跡(ひじしおなかはらいせき)の発掘調査報告書である。

2．土塩中原遺跡は、群馬県安中市松井田町土塩地内に所在する。

地番は、791-7、968-4、969-4、969-5、969-6、969-7、972-2、972-3、972-4、973-3、973-4、973-5、974-3、974-4、974-5、974-6、975-3、975-4、975-5、1007-3、1007-5、1007-6、1007-7、1008-2、1008-4、1008-5、1008-14、1008-15、1008-16、1008-17、1009-4、1009-5、1009-6、1009-7、1009-8、1009-9、無番地道である。

3．事業主体　群馬県安中土木事務所

4．調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．発掘調査の期間と体制は次の通りである。

履行期間　令和４年４月１日～令和４年６月30日

調査期間　令和４年４月１日～令和４年４月30日

調査担当　新井　仁(専門調査役)

遺跡掘削工事請負　有限会社毛野考古学研究所

地上測量業務委託　アコン測量設計株式会社

遺物洗浄注記業務委託　社会福祉法人ゆずりは会

6．整理作業の期間と体制は次の通りである。

履行期間　令和５年４月１日～令和５年７月31日

整理期間　令和５年４月１日～令和５年５月31日

整理担当　関口博幸(上席調査研究員・資料統括)

7．本書作成の担当者は次の通りである。

編集　関口博幸

デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真　調査担当者

遺物実測・観察表作成　縄文土器：橋本　淳(主任調査研究員・資料統括)、縄文石器：関口博幸

遺物写真撮影　関口博幸

本文執筆　関口博幸

8．発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9．発掘調査及び報告書の作成にあたり、次の関係機関にご指導並びにご協力をいただきました。記して感謝申し上げます(敬称略)。

群馬県県土整備部、群馬県安中土木事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、安中市教育委員会

凡　例

1．本報告書の挿図で使用した座標値については、世界測地系(測地成果2011・日本測地系Ⅸ系)を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標軸Ｘ・Ｙ値の下３桁を表記した。方位については、座標北を用いた。

2．等高線、遺構断面図基準線に記した数値については、海抜標高値である。

3．遺構番号については、調査区や時代に関係なく遺構種ごとに１番から番号を付した(例：１号遺物集中、１号土坑、１号ピット、１号復旧坑)。

4．本報告書で記した遺構番号については､発掘調査時に付された番号を踏襲した。遺構番号に欠番や抹消があっても、既存の遺構番号と遺構図面・写真ファイル名・遺物注記などとの照合を一致させるために、遺構番号の変更や振り替えは行っていない。

5．遺構図の縮尺は、１/40、１/100、１/200、１/400であり、各挿図中にスケールを記した。

6．遺物図の縮尺は、縄文土器については１/ ３、縄文石器については１/ １、４/ ５、１/ ３であり、各挿図中にスケールを記した。

7．遺物写真の縮尺は、遺物図の縮尺と同じである。

8．遺物図中に記した各記号は、次のとおりである。

縄文土器：断面図●＝胎土に繊維を含む

縄文石器： ＝敲打痕、 ＝摩耗痕

9．遺構一覧表の計測値(長さ・幅・深さ)の単位については、cmである。計測値の前に記した△は調査区外やほかの遺構に切られることを示す。

10. 遺物観察表・石器一覧表で示した石器の計測値(長さ・幅・厚さ・重量)の単位については、mm・ｇである。

11. 本報告書中で記した、テフラの略称は次のとおりである。

浅間Ａ軽石　As-A	浅間板鼻褐色軽石群　As-BPGroup
浅間Ｂ軽石　As-B	浅間室田軽石　MP
浅間Ｃ軽石　As-C	姶良丹沢火山灰　AT
浅間板鼻黄色軽石　As-YP	

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査に至る経緯・調査の方法・調査経過
　第１節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　（１）概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　（２）遺跡が所在する安中市・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　　（３）県道長久保郷原線の歩道整備事業・・・・・・・ 2
　　（４）調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　第２節　調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　（１）調査面積と調査範囲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　（２）安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　（３）調査区の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　（４）グリッドの設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　（５）遺構確認面の設定と遺構の調査 ・・・・・・・・・ 2
　　（６）記録方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　（７）遺物洗浄注記作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　（８）小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第３節　調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第４節　整理作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第２章　地理的環境と周辺遺跡・基本土層
　第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　　（１）遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　　（２）緯度・経度と標高 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　　（３）遺跡の周辺地形・立地地形・・・・・・・・・・・・ 5
　第２節　周辺遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　第３節　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第３章　検出された遺構と遺物
　第１節　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　第２節　縄文時代の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・ 10
　　（１）遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　　（２）遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　　（３）遺物集中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　　（４）土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　　（５）ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
　　（６）遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　第３節　平安時代以降の遺構と遺物
　　（１）概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（２）復旧坑の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（３）復旧坑の形成時期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（４）復旧坑の形成過程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　　（５）復旧坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

第４章　調査成果
　第１節　縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
　　（１）出土遺物について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
　　（２）遺構について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
　第２節　平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

遺構一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
石器一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　事業地の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　調査範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　調査区の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第４図　遺跡の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第５図　遺跡の周辺地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第６図　遺跡の立地地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第７図　周辺遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第８図　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第９図　縄文土器型式別点数グラフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第10図　縄文時代・遺構全体図（１区・２区）・・・・・・・・・・・・・・・22
第11図　１区１号遺物集中遺物分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第12図　１区１号遺物集中出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第13図　１区１号遺物集中出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第14図　縄文時代の土坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第15図　縄文時代の土坑（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第16図　縄文時代のピット（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第17図　縄文時代のピット（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第18図　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第19図　平安時代以降・遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第20図　１区１号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第21図　１区２号・３号復旧坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第22図　２区４号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第23図　２区５号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第24図　３区６号復旧坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

表　目　次

第１表　調査成果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第２表　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第３表　検出された遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第４表　縄文土器集計表（遺構別・土器型式別）・・・・・・・・・・・・・・11
第５表　縄文石器集計表（遺構別・器種別点数）・・・・・・・・・・・・・・12
第６表　縄文石器集計表（器種別・石材別点数）・・・・・・・・・・・・・・12
第７表　縄文石器集計表（器種別・石材別重量）・・・・・・・・・・・・・・12

写真目次

ＰＬ．１　１　１区北側２面全景（北西から）
　　２　２区北側３面全景（南東から）
ＰＬ．２　１　１区北側２面全景（南東から）
　　２　１区南側２面全景（南東から）
　　３　１区北側東壁セクション（南東から）
　　４　１区南側東壁セクション（西から）
　　５　２区北側As-B下全景（南東から）
　　６　２区南側２面全景（北西から）
　　７　２区南側東壁セクション（１）（南から）
　　８　２区南側東壁セクション（２）（南から）
ＰＬ．３　１　３区As-B下全景（北西から）
　　２　３区As-B下全景（南東から）
　　３　調査風景（北から）
　　４　１区南側東壁セクション（南から）
　　５　２区南側東壁セクション（南から）
　　６　３区東壁セクション（南から）
　　７　１区１号トレンチセクション（１）（南から）
　　８　１区１号トレンチセクション（２）（南から）
ＰＬ．４　１　１区１号遺物集中全景（北西から）
　　２　１区１号遺物集中セクション（南東から）
　　３　１区１号遺物集中遺物出土状態（１）（北から）
　　４　１区１号遺物集中遺物出土状態（２）（北から）
　　５　１区１号遺物集中遺物出土状態（３）（北から）
ＰＬ．５　１　１区１号土坑全景（北から）
　　２　１区１号土坑セクション（西から）
　　３　１区２号土坑全景（東から）
　　４　１区２号土坑セクション（東から）
　　５　１区３号土坑全景（西から）
　　６　１区３号土坑セクション（北西から）
　　７　１区４号土坑全景（西から）
　　８　１区４号土坑セクション（西から）
　　９　１区５号土坑全景（西から）
　　10　１区５号土坑セクション（北から）
　　11　１区６号土坑全景（南から）
　　12　１区６号土坑セクション（南から）
　　13　１区７号土坑全景（西から）
　　14　１区７号土坑セクション（西から）
　　15　２区８号土坑全景（北から）
ＰＬ．６　１　２区８号土坑セクション（北から）
　　２　２区９号土坑全景（東から）
　　３　２区９号土坑セクション（西から）
　　４　２区10号土坑全景（南西から）
　　５　２区10号土坑セクション（南西から）
　　６　２区11号土坑全景（南から）
　　７　２区11号土坑セクション（西から）
　　８　２区12号土坑全景（南から）
　　９　２区12号土坑セクション（西から）
　　10　２区13号土坑全景（南から）
　　11　２区13号土坑セクション（西から）
　　12　２区14号土坑全景（南から）
　　13　２区14号土坑セクション（西から）
　　14　２区15号土坑全景（東から）
　　15　２区15号土坑セクション（東から）
ＰＬ．７　１　２区16号土坑全景（南から）
　　２　２区16号土坑セクション（南から）
　　３　１区北側２面全景（北西から）
　　４　１区２号ピット全景（東から）
　　５　１区２号ピットセクション（西から）
　　６　１区３号ピット全景（東から）
　　７　１区３号ピットセクション（西から）
　　８　１区４号ピット全景（西から）
　　９　１区４号ピットセクション（西から）
　　10　１区５号ピット全景（東から）
　　11　１区５号ピットセクション（西から）
　　12　１区６号ピット全景（東から）
　　13　１区６号ピットセクション（西から）
　　14　１区７号ピット全景（北から）
　　15　１区７号ピットセクション（南から）
ＰＬ．８　１　１区８号ピット全景（南東から）
　　２　１区８号ピットセクション（西から）
　　３　１区９号ピット全景（南から）
　　４　１区９号ピットセクション（北から）
　　５　１区10号・11号ピット全景（南から）
　　６　１区10号ピットセクション（南から）

7　1区11号ピットセクション(南から)
8　1区12号ピット全景(南から)
9　1区12号ピットセクション(南西から)
10　1区13号ピット全景(南西から)
11　1区13号ピットセクション(西から)
12　1区14号ピット全景(南東から)
13　1区14号ピットセクション(東から)
14　1区15号ピット全景(南西から)
15　1区15号ピットセクション(西から)
PL.9　1　1区16号ピット全景(東から)
2　1区16号ピットセクション(東から)
3　1区17号ピット全景(南から)
4　1区17号ピットセクション(西から)
5　1区18号ピット全景(東から)
6　1区18号ピットセクション(東から)
7　1区19号ピット全景(西から)
8　1区19号ピットセクション(西から)
9　1区20号ピット全景(西から)
10　1区20号ピットセクション(西から)
11　1区21号ピット全景(南から)
12　1区21号ピットセクション(南から)
13　1区22号ピット全景(南から)
14　1区22号ピットセクション(南から)
15　1区23号ピット全景(西から)
PL.10　1　1区23号ピットセクション(西から)
2　2区24号ピット全景(南から)
3　2区24号ピットセクション(南から)
4　2区25号ピット全景(南から)
5　2区25号ピットセクション(西から)
6　2区26号ピット全景(西から)
7　2区26号ピットセクション(南から)
8　2区27号ピット全景(東から)
9　2区27号ピットセクション(東から)
10　2区28号ピット全景(東から)
11　2区28号ピットセクション(東から)
12　2区29号ピット全景(東から)
13　2区29号ピットセクション(南から)
14　2区30号ピット全景(東から)
15　2区30号ピットセクション(西から)
PL.11　1　2区31号ピットセクション(西から)
2　2区31号ピット全景(南から)
3　2区32号ピット全景(南東から)
4　2区32号ピットセクション(南から)
5　2区33号ピット全景(東から)
6　2区33号ピットセクション(東から)
7　1区南側2面全景(南東から)
8　3区全景(南東から)
9　調査風景(1)(北西から)
10　調査風景(2)(南東から)
PL.12　1　1区1号復旧坑As-B下全景(1)(南から)
2　1区1号復旧坑As-B下全景(2)(南から)
3　1区1号復旧坑As-B下全景(3)(南から)
4　1区1号復旧坑As-B下全景(4)(南から)
5　1区2号復旧坑5号土坑(南から)
6　1区2号復旧坑8号土坑(南から)
7　1区2号復旧坑9号土坑(南から)
8　1区2号復旧坑10号土坑(南から)
PL.13　1　1区3号復旧坑As-B下全景(1)(北西から)
2　1区3号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)
3　2区4号復旧坑As-B下全景(1)(南東から)
4　2区4号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)
5　2区5号復旧坑全景(1)(北西から)
6　2区5号復旧坑全景(2)(南東から)
7　3区6号復旧坑全景(南東から)
8　3区東壁セクション(南から)

PL.14　1区1号遺物集中出土遺物(1)
PL.15　1区1号遺物集中(2)・2号土坑出土遺物
PL.16　土坑・ピット・遺構外出土遺物

第１章　調査に至る経緯・調査の方法・調査経過

第１節　調査に至る経緯

（１）概要

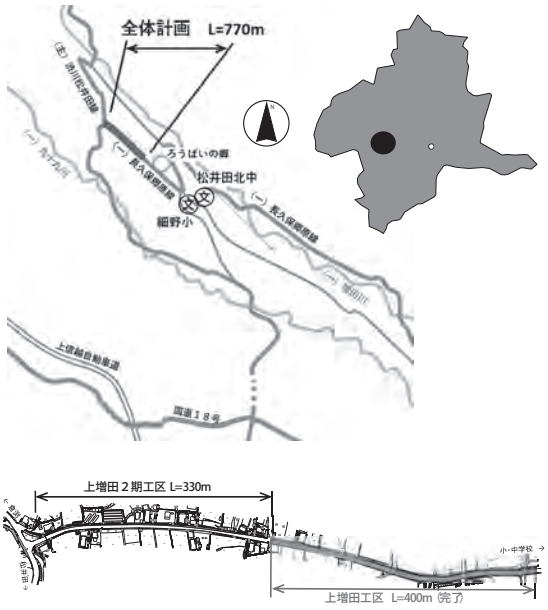
群馬県は、本州のほぼ中央部に位置する関東地方の内陸県である。首都・東京から見て約100㎞圏内の関東地方北西部に位置していることから、群馬県は高速道路や新幹線などの高速交通網の整備が進み、関東地方各地だけでなく太平洋側地域や日本海側地域、北陸地方、東北地方などの各地域と東京を結ぶ中継地としての役割を発揮している。例えば、首都圏と日本海側の新潟県を結ぶ高速交通網として、関越自動車道と上越新幹線が県土を南北に縦貫し、また長野県や北陸の富山県・石川県を結ぶ上信越自動車道や北陸新幹線が県土を東西に横断している。さらに、太平洋側の茨城県を結ぶ北関東自動車道が県土を東西に横断し、県東部には東京と東北地方を結ぶ東北自動車道が縦断している。

このように、群馬県は複数の高速交通網が交差する十字軸を形成した地域で、東京と関東地方、中部地方、太平洋側地域、日本海側地域を繋ぐ結節点となっている。全国でも有数の内陸交通の要衝地であり、群馬県の経済、産業、防災、生活全般を支える大きな利点といえる。

こうした群馬県の地理的な特性と整備された高速交通網の利点を生かし、高速道路に接続する道路をより一層整備していくことで、群馬県は関東地方各地の空港や太平洋・日本海の港湾など、国際交流拠点に繋がる所要時間が短縮され、地理的な優位性を一層発揮でき、企業の生産・物流・バックアップ拠点、防災、観光振興としての役割の向上が期待された地域といえる。

そして、関越自動車道や上信越自動車道、北関東自動車道、上越新幹線、北陸新幹線、上武道路などの大規模事業をはじめ、道路拡幅などの小規模事業を含めた各種の公共開発事業に伴い、群馬県内各地で発掘調査が行われることになった。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（以下、事業団という）は、1978年の設立以来、これらの公共開発事業と埋蔵文化財の記録保存の調和を図るために、県内各地で数多くの遺跡を発掘調査してきたのである。本報告の土塩中原遺跡もその一つである。



第１図　事業地の位置（群馬県2022より引用）

（２）遺跡が所在する安中市

本遺跡は、群馬県安中市松井田町土塩地内に所在する。安中市は、西毛地域とよばれる群馬県西部に位置し、江戸時代には五街道の一つである中山道が市内を東西に横断し、安中宿や松井田宿などが宿場町として栄えた。碓氷峠には関所が設置され、人と物資の往来を監視し陸上交通の要衝地としての役割を果たしてきた。

現在では、北陸新幹線や上信越自動車道、国道18号線、西毛広域幹線道路などの高速交通網や幹線道路が整備され、安中市は首都圏と長野県・北陸地域を結ぶ交通の要衝地となっている。

また、安中市は紅葉で有名な妙義山や霧積湖、妙義湖などの自然、碓氷第三橋梁（めがね橋）や旧丸山変電所、アプトの道などの碓氷峠鉄道遺産をはじめ、磯部温泉、霧積温泉、秋間梅林などの観光資源にも恵まれており、整備された交通網と各地の観光資源を一体的に活用した地域振興が進められている。

一方、地域振興が進むと同時に地域住民からは、災害

時の安全確保や強靭な交通網の整備、移動手段の確保、学校周辺や市街地での歩行者・自転車の安全確保のための歩道整備、観光地での一層の集客と渋滞解消のための交通対策といった要望が群馬県に寄せられるようになった。

（３）県道長久保郷原線の歩道整備事業（第１図）

県道長久保郷原線は、安中市松井田町土塩付近から同町小日向付近を通過する県道である。沿線には小学校や中学校があり、児童・生徒の通学路として利用される道路である。しかし､交通量が多いわりに歩道が狭いため、地域住民からは安全な通学路を確保するための歩道整備の要望が寄せられていた。

群馬県県土整備部は、このような地域の要望を受け「歩行者や自転車の安全な通行を確保するため」（群馬県2022）の取り組みの一環として、安中市松井田町上増田地内の県道長久保郷原線において歩道整備事業を実施することになった（群馬県2022）。

（４）調査に至る経緯

本遺跡は、この歩道整備事業に伴い、事業団によって令和４年度に発掘調査された遺跡である。調査に至る経緯は次のとおりである。

当該事業を担当する群馬県安中土木事務所（以下、安中土木という）は、事業実施に先立ち群馬県地域創生部文化財保護課（以下、文化財保護課という）に事業地の埋蔵文化財の試掘調査を依頼した。文化財保護課は、事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地（安中市遺跡番号U0039遺跡）の範囲内にあるため、試掘調査を実施して遺構・遺物の分布範囲を確認することにした。

試掘調査の結果、遺構・遺物が広範囲に分布することが確認された。このことから、文化財保護課は事業地の本調査が必要であると判定し、安中土木に回答した。

安中土木は、試掘調査の結果を受けて当該事業地の本調査を実施することになった。文化財保護課の調整により、当事業団が本遺跡の本調査を実施することになり、安中土木と当事業団は発掘調査に関する契約を結んだ。調査面積は775.56㎡、調査期間は令和４年４月１日から令和４年４月30日までの１か月間とした。

引用文献
群馬県2022 『令和４年度版よくわかる公共事業～公共事業の目的、効果、進捗状況を情報発信～―安中地域―』群馬県ホームページ

第２節　調査の方法

（１）調査面積と調査範囲（第２図・３図）

調査面積は、775.56㎡である。調査範囲は、概ねＸ＝39765～39915、Ｙ＝-95395～-95565の範囲内である。

歩道整備に伴う県道拡幅の発掘調査で、幅約１～３ｍ×総延長約230ｍの狭く細長い調査範囲となった。

（２）安全対策

狭長な調査範囲全体が県道に直接面していたため、全体に安全柵を設置し安全を確保して調査した。また、表土掘削や排土の処理も安全面に配慮し、小型の重機やダンプを利用した。さらに幅が狭い３区は小型の重機も入れないためすべて人力で掘削した。

（３）調査区の設定（第３図）

調査範囲は東西に細長いため、現道や建物を境界として東から西へ順に調査区を１区・２区・３区に分割した。

（４）グリッドの設定

グリッドの設定は行わなかった。このため、遺構に伴う出土遺物については遺構ごとに取り上げたものの、遺構に伴わない遺物包含層等の出土遺物については各調査区の一括で取り上げた。

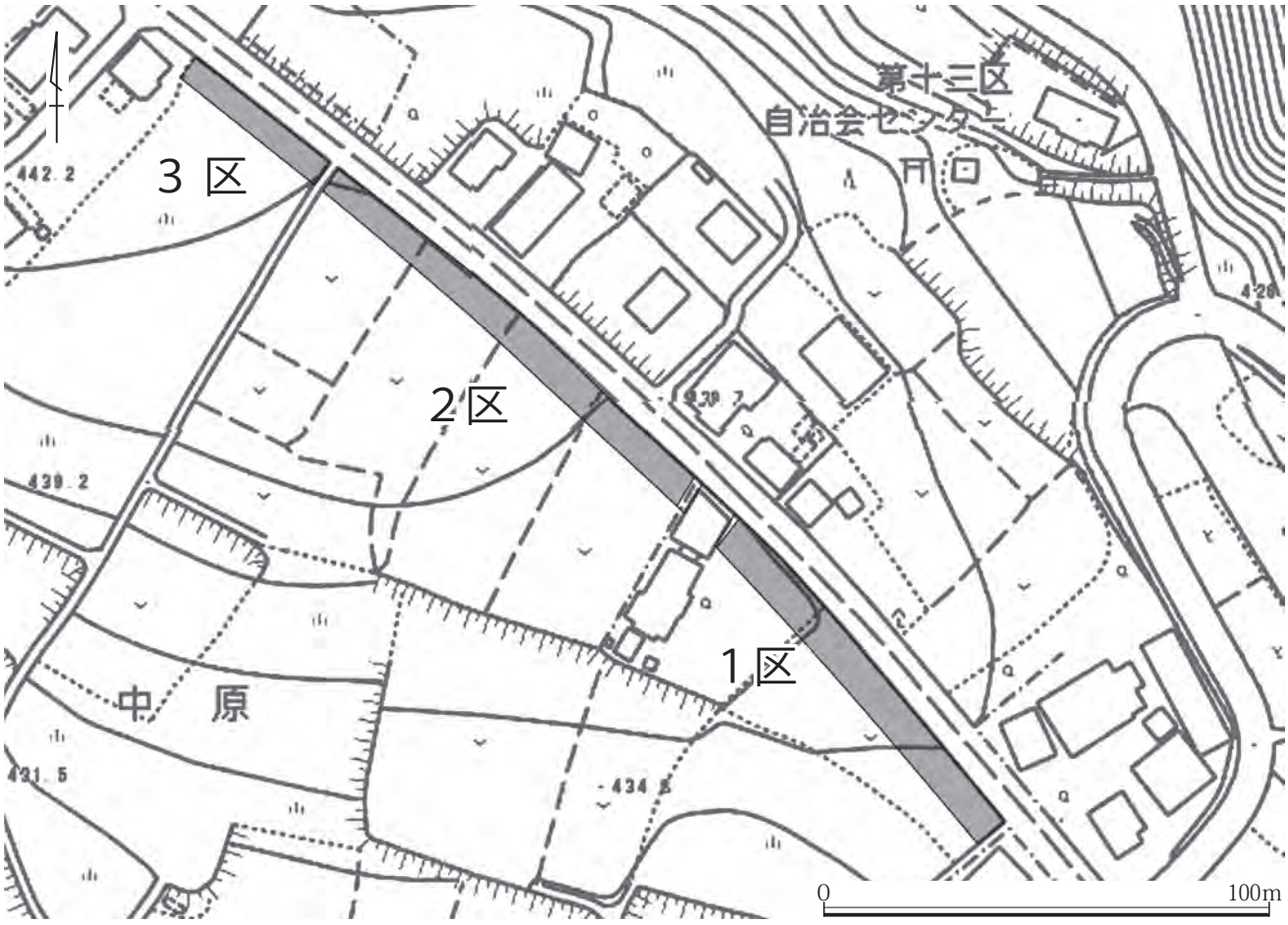
（５）遺構確認面の設定と遺構の調査（第８図）

遺構確認面は１面と２面の計２面を設定した。１面はⅣ層上面に設定した。平安時代以降の遺構検出を目的とした遺構確認面で、主な遺構として平安時代のAs-B降灰に伴う復旧坑を検出した。２面はⅥ層上面に設定した。古墳時代から縄文時代の遺構検出を目的とした遺構確認面で、縄文時代の遺物集中や土坑、ピットを検出した。

表土掘削は、１区・２区は小型のバックフォーで行い、３区は人力で行った。表土掘削後に１面の遺構確認作業を行った。２面は１面の調査終了後に人力で掘削して遺構確認作業を行った。

検出した遺構は番号を付与して調査した。遺構番号は遺構種ごとに調査区や時代に関係なく遺跡全体での通し番号とした。復旧坑は平面的な広がりを確認し、掘り方を測量した。また、調査区壁面で土層セクション

第２図　調査範囲(安中市都市計画図を加工)



第３図　調査区の設定(安中市都市計画図を加工)

図・土層注記・調査所見を記録した。土坑・ピットは半截し、遺構内の埋没土層(遺構覆土)の写真撮影と土層セクション図・土層注記・調査所見を記録した。その後、完掘して全景及び遺物出土状況を写真撮影し、平面図を作製した。

遺構確認作業や遺構調査に伴う一連の掘削作業は調査担当者の管理指導のもと、遺跡掘削監理技術者が発掘作業員に指示して行った。

（６）記録方法

遺構図面は、測量会社に委託して作製した。遺構平面図、土層セクション図、遺物出土位置を電子平板でデジタル測量してデータ化し、紙出力とデジタルデータをDVDで納品した。図面の縮尺は1/20を基本とし、ほかに1/40、1/100、1/200とした。

土層注記は、調査担当者が行った。土層観察には土色帳(新版標準土色帳)を使用した。

出土遺物は、遺構ごとにラベルを付して取り上げた。出土位置の詳細な記録が必要な遺物については、遺構ごとに遺物番号を付けて座標値を測量し取り上げた。遺構に伴わない遺物については、グリッドを設定していないため各調査区の一括遺物として取り上げた。

遺構写真は、調査担当者が撮影した。基本的に35㎜デジタルカメラを使用した。写真データはRAWデータで記録し、外付けハードディスク・DVDで保管した。また、６×７サイズカメラも使用し、モノクロフィルムISO400ブローニー版120タイプで撮影した。

（７）遺物洗浄注記作業

出土遺物は遺物収納コンテナ箱２箱であった。遺物の洗浄作業と注記作業は委託により実施した。

（８）小結(第１表)

計775.56㎡を調査した。検出された遺構は、縄文時代では遺物集中計１か所、土坑計16基、ピット計32基、平安時代では復旧坑計５基、中世では復旧坑計１基であった。出土遺物は遺物収納コンテナ箱２箱分で、そのうちの大部分が縄文土器であった。

第１表　調査成果の概要

調査面積（㎡）	時代	遺構				遺物
		遺物集中	土坑	ピット	復旧坑	
775.56	縄文	1	16	32		2箱
	平安				5	
	中世				1	

第３節　調査経過

発掘調査は、令和４年４月１日から令和４年４月30日まで行った。主な調査経過は次のとおりである。

４月１日　調査開始
４月４日　現地確認
４月６日　安全柵設置
４月７日　１区表土掘削開始
４月８日　１区表土掘削及び遺構確認作業
４月11日　１区As-B下復旧坑、土坑、ピットの調査
４月15日　２区表土掘削開始
４月18日　１区As-B下復旧坑の調査、１区全景写真
４月19日　１区1号遺物集中の調査
４月22日　２区As-B下復旧坑の調査
４月25日　調査区セクションの写真及び測量
４月26日　３区As-B下復旧坑の調査終了
４月27日　事務所撤収作業
４月30日　調査終了

第４節　整理作業

整理作業は、発掘調査に引き続き当事業団が行った。令和５年４月１日から開始し令和５年５月31日までの２か月間行った。

まず出土遺物と遺構図面・写真の基礎整理作業から開始した。縄文時代の遺構と遺物が主体であったため、縄文土器と縄文石器の整理作業が中心となった。

縄文土器については、土器型式の分類と集計作業を行いデータ作成した。縄文石器については、器種分類と石材同定、集計作業を行い、石器の属性観察とデータ作成を行った。遺構図面･写真については､撮影デジタルデータを編集作業した。

次に縄文土器・縄文石器のデジタル写真撮影と編集作業、実測トレース作業、遺物観察表作成を行った。並行して、報告書に刊行に向けて原稿作成、遺構・遺物図面とデジタル写真のレイアウト編集作業を行った、

次に記録図面・写真類と遺物の収納作業を行い、令和５年５月31日に整理作業は終了した。

最後に、令和５年７月に本報告書を刊行し、関係機関に発送して本事業に伴う整理作業はすべて終了した。

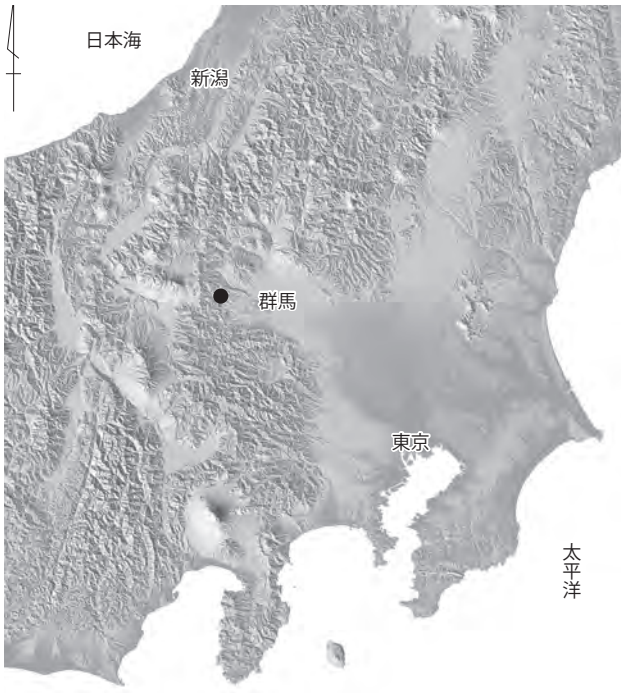
第２章　地理的環境と周辺遺跡・基本土層

第１節　地理的環境

（１）遺跡の位置（第４・５・６・７図）

本遺跡は、群馬県安中市松井田町土塩地内に所在する。本遺跡から見て、北陸新幹線安中榛名駅は東方約７km、上信越自動車道松井田妙義インターチェンジは南方約4.5km、JR信越本線横川駅は南西約3.5kmに位置する。

また、本遺跡は関東地方北西部の内陸部に位置し、遺跡から海岸までの最短距離は、日本海までが約100km、太平洋（東京湾）までが約120kmである。



第４図　遺跡の位置（●）
（国土地理院・地理院地図をもとに作成）

（２）緯度・経度と標高

緯度・経度は、東西に細長い調査範囲の中心付近で、北緯36度21分16秒、東経138度46分10秒である。

標高は、この調査範囲の西端部で約443m、中央部で約440m、東端部で約435mである。調査範囲内の標高差は約８mである。

（３）遺跡の周辺地形・立地地形（第５・６図）

安中市は、西毛地域と呼ばれる群馬県西部地域の一角に位置する。わが国最大の流域面積を持つ利根川水系の支流の一つである碓氷川が市の中心部を東流する。安中市は碓氷川流域全体の範囲に相当する。

碓氷川は碓氷峠の東側付近の山間部を源流とし、入山川や霧積川、中木川、九十九川、柳瀬川などの支流を集めながら東流し、やがて高崎市常盤町付近で烏川に合流する、流路延長約37.6kmの一級河川である。市東半部では碓氷川やその支流が形成した河岸段丘が発達し平坦地が比較的多い。一方、市西半部を占める松井田町は山間地が大部分を占め、特に碓氷峠や入山峠がある県境の西端部付近では険しい山岳地形となっている。

また、安中市松井田町一帯は関東地方最北西部に相当し、本遺跡の西方約10km付近には太平洋側地域と日本海側地域及び中部高地を画する分水嶺が南北に縦走している。この分水嶺には、北から鼻曲山（1655m）、留夫山（1590.8m）、矢ケ崎山（1184.1m）、愛宕山（1191.8m）などの山岳部が南北に連なり、碓氷峠や入山峠などの峠は古くから関東地方と中部高地を連絡する交通の要衝地となっていた。なお、この分水嶺は群馬県と長野県を画する県境であり、県境の東側が群馬県安中市松井田町、西側が長野県北佐久郡軽井沢町である。

本遺跡は、安中市内を東流する碓氷川の左岸側に位置する。左岸側には碓氷川支流の九十九川が並走するように東流し、市東端の中宿付近で碓氷川に合流する。本遺跡はこの合流点から九十九川を直線で約13km上流に遡った丘陵地に立地する。

この丘陵地は、遺跡の北西約2.5kmにある高戸谷山（739.3m）から南東方向に延びる裾野に相当する地形で、南東方向に並走して流れる九十九川と増田川に挟まれた幅約800m・長さ約６kmの細長い丘陵地である。遺跡はこの裾野が平坦な丘陵地に移り変わる境界付近に立地している。この範囲では、傾斜の緩やかな丘陵地が発達しているが、丘陵地の北側と南側は山間地となっている。

第２節　周辺遺跡

（第７図、第２表）

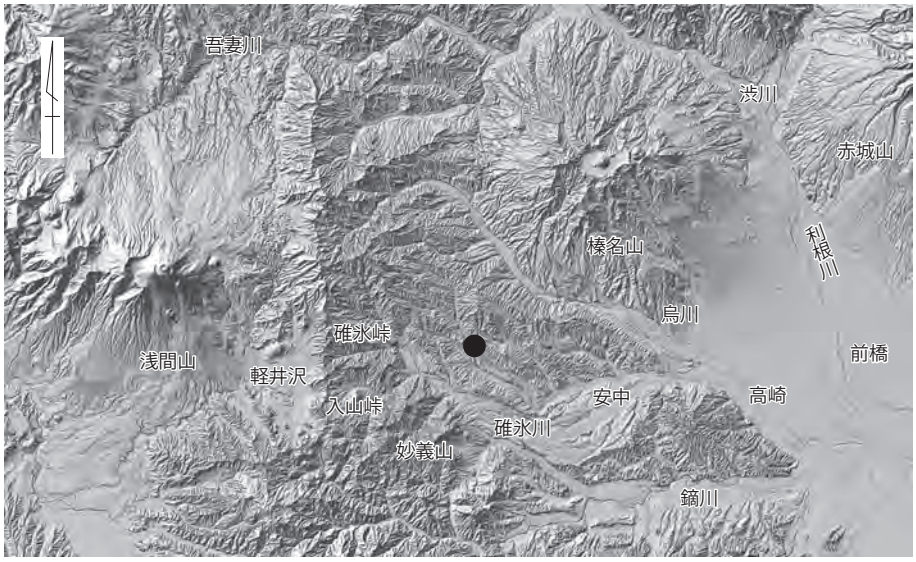
本遺跡の周辺には縄文時代以降の多数の遺跡が分布している。ここでは、碓氷川左岸側で、本遺跡が立地する九十九川と増田川に挟まれた丘陵地とその周辺の主な遺跡について、各時代の様相とともに示す。

旧石器時代では、本遺跡の周辺ではまだ確実に調査した旧石器遺跡はない。碓氷川左岸側で古城遺跡、右岸側で向原Ⅳ遺跡が調査されているものの、赤城山南麓地域や大間々扇状地（桐原面）地域に比べて旧石器遺跡の調査例はとても少ない。この原因は、ローム層中にテフラが厚く堆積し、旧石器遺跡の確認調査を難しくしているためである。決して旧石器遺跡が存在しないのではない。

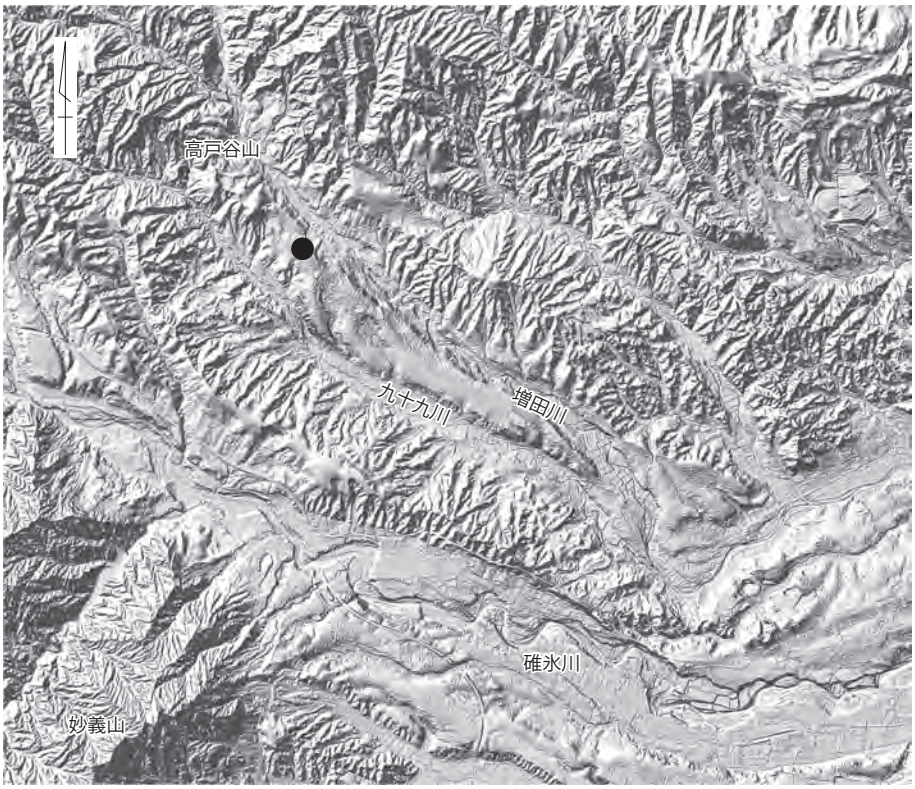
碓氷川流域は、浅間山から近いためMPやAs-BPGroup、As-YPなどのテフラが群馬県内で最も厚く堆積している地域である。しかも、これらのテフラは最も多くの旧石器遺跡が存在する暗色帯（AT下位で約３万年以前）の上位に堆積しているため、暗色帯の層準まで調査がなかなか到達できていない。これが碓氷川流域における旧石器遺跡の少なさの原因である。

関東地方北西部の利根川水系の鏑川や碓氷川、吾妻川などの各支流域は、黒曜石産地がある中部高地と多数の旧石器遺跡が残された関東平野とを結ぶ中継地として、旧石器時代の狩猟採集民が頻繁に往来し遺跡を残した場所であったと考えられる。実際、鏑川流域では旧石器遺跡が多数発見されている。本遺跡の周辺でも今後より深くローム層の調査が実施されれば、旧石器遺跡もおのずと発見されるはずである。新たな旧石器遺跡の発見のためには、困難だが旧石器遺跡調査への目的意識を持ってローム層をきちんと調査していくことである。

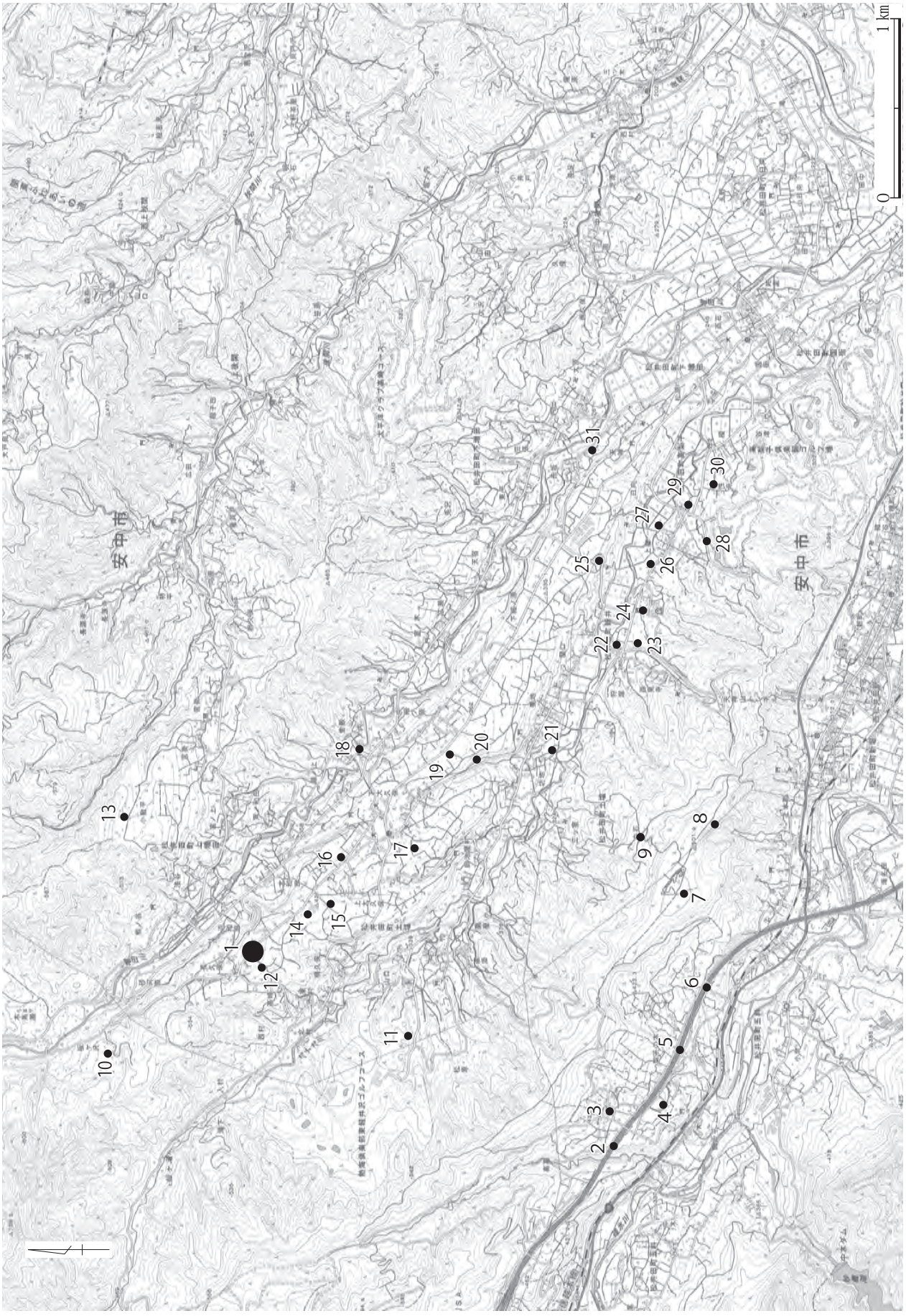
縄文時代では、多数の遺跡が分布し調査されている。本遺跡の南側には、土塩長久保遺跡、東側には土塩下原遺跡、土塩西大久保遺跡、上増田上細野原遺跡、土塩東



第５図　遺跡の周辺地形（遺跡●　国土地理院・陰影起伏図をもとに作成）



第６図　遺跡の立地地形（遺跡●　国土地理院・陰影起伏図をもとに作成）



第７図　周辺遺跡(国土地理院1/25000　53軽井沢Ｈ９.10　54三ノ倉Ｓ62.11　61南軽井沢Ｈ６.７　62松井田Ｈ６.８を使用)

第２表　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	種別	備考
1	土塩中原遺跡	縄文・平安	集落	本報告の遺跡
2	五料稲荷谷戸遺跡西地区	奈良・平安	集落	H9松井田町遺跡調査団
3	五料稲荷谷戸遺跡東地区	奈良・平安	集落	H9松井田町遺跡調査団
4	臼井７号墳	古墳時代	円墳	
5	五料高墓	中世	板碑	
6	五料野ヶ久保遺跡	縄文・奈良・平安	集落	H9松井田町遺跡調査団
7	新井白石遺跡	縄文	包蔵地	
8	松井田西城跡	中世	城館	
9	土塩白石遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期
10	上増田板ケ沢遺跡	縄文		S11加曽利Ｂ式小型コップ状土器
11	土塩山口遺跡	中世	板碑	
12	土塩長久保遺跡遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期遺物多
13	上増田宮掛・浅谷遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期石器濃密分布
14	土塩下原遺跡	縄文	竪穴建物跡	H4松井田町埋蔵文化財調査会
15	土塩西大久保遺跡	縄文	包含層	縄文中期後葉土器・石器
16	上増田上細野原遺跡	縄文		S31加曽利Ｂ式土器
17	土塩東大久保遺跡	縄文		S35関山式土器、S33加曽利Ｅ式土器
18	上増田引ノ内遺跡	中世	板碑	筒中所在、八郡所在
19	新井上原遺跡	縄文		S32勝坂式土器出土
20	土塩畑中遺跡	縄文		S49堀之内式土器完形
21	土塩坊地遺跡	中世	板碑	建治４(1278)年の銘
22	細野７号墳	古墳	帆立貝	
23	細野８号墳	古墳	円墳	
24	高梨子碓貝戸遺跡	弥生・奈良・平安	集落	
25	高梨子椚坂遺跡	弥生	包蔵地	樽式土器
26	高梨子森下遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	集落	H20安中市教育委員会
27	高梨子柳下遺跡	奈良・平安	水田	H20安中市教育委員会As-B下水田
28	高梨子三次郎遺跡	縄文・古墳～平安	集落	H10松井田町埋蔵文化財調査会
29	高梨子八木田遺跡	弥生～平安	包蔵地	
30	高梨子中貝戸遺跡	弥生～平安	包蔵地	
31	下増田天神原遺跡	縄文～平安	包蔵地	

大久保遺跡、土塩畑中遺跡、新井上原遺跡など、多数の縄文遺跡が分布しており、本遺跡一帯は縄文遺跡群を形成している可能性が考えられる。

碓氷川流域では、これまで多数の縄文遺跡が調査されている。例えば、左岸側では野村遺跡、右岸側では中野谷松原遺跡、天神原遺跡、新堀東源ヶ原遺跡、行田梅木平遺跡など大規模な遺跡が多数調査されている。本遺跡の周辺にもこのような大規模な縄文遺跡が存在していると考えられる。また、本遺跡の周辺では縄文時代の遺物包含層である黒色土が厚く堆積しているため、縄文遺跡は良好に残存している可能性が高い。

弥生時代では、高梨子碓貝戸遺跡、高梨子椚坂遺跡、高梨子八木田遺跡、高梨子中貝戸遺跡がある。

古墳時代から中世では、細野７号墳、細野８号墳などの古墳がある。また、高梨子森下遺跡、高梨子三次郎遺跡では古墳時代から平安時代の集落が調査され、高梨子柳下遺跡では平安時代のAs-B下水田が調査されている。中世の遺跡では、土塩山口遺跡、上増田引之内遺跡がある。

以上のように、本遺跡の周辺では多数の遺跡が分布している。とりわけ縄文遺跡が集中していることが特徴といえる。

第３節　基本土層(第８図)

基本土層について、模式的に示した。本遺跡の土層の特徴は、縄文時代の遺物包含層であるⅥ層(黒色土層)が厚く堆積していること、As-B降灰に伴う畑の復旧により天地返しされた土層(Ⅳ層・Ⅴ層)が調査区の広範囲で確認されたことである。

なお、浅間Ａ軽石(As-A(Ⅲ層))は部分的に一次堆積層が確認された。As-Bの一次堆積層は復旧坑により撹拌されたため、確認できなかった。また、浅間Ｃ軽石(As-C)の一次堆積層は確認できなかった。

Ⅰ層　黒褐色土層(10YR2/2)　表土で現在の耕作土である。As-Aを多量に含む。

Ⅱ層　黒褐色土層(10YR2/2)　As-Aを多量に含む。黒色土ブロックを少量含む。

Ⅲ層　にぶい黄褐色火山灰層(10YR5/3)　As-Aの一次堆積層である。部分的に堆積していた程度である。

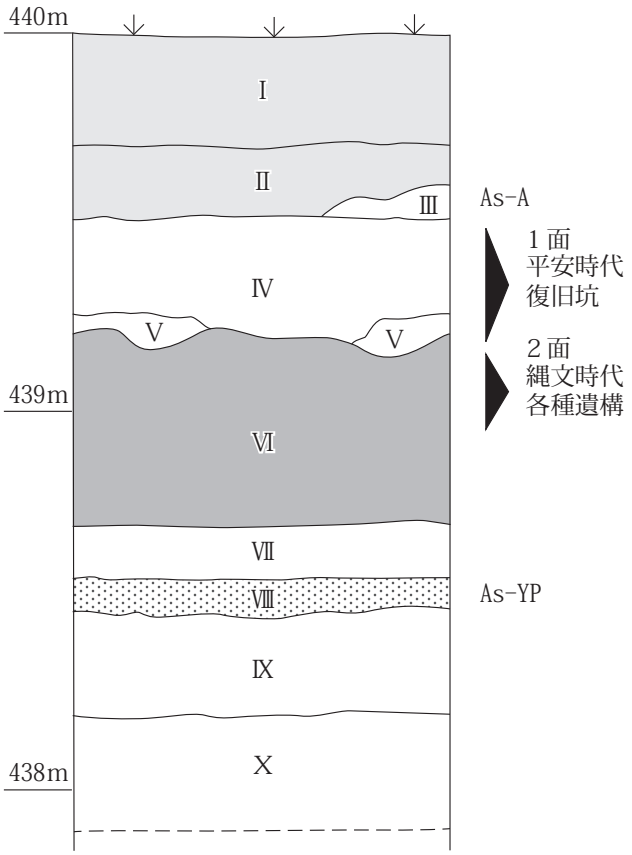
Ⅳ層　黒色土層(10YR2/1)　As-Bを多量に含む黒色土である。As-B降灰に伴う復旧坑の天地返しされたAs-B混土層で、復旧後の耕作土である。

Ⅴ層　褐色土層(10YR4/6)　As-B純層である。As-B降灰に伴う復旧坑の天地返しされた土層で、復旧坑の底面で部分的に検出された。なお、As-B純層とは天地返しにより人為的に埋め戻された純度の高いAs-Bのことであり、一次堆積層ではない。As-Bは、降灰当時には厚く一次堆積したと推定されるが、復旧坑により撹拌されたため、調査範囲内では一次堆積層で確認できなかった。

Ⅵ層　黒色土層(10YR2/2)　黄色軽石・白色軽石を全体的に含む。上半部の点在する白色軽石はAs-Cの可能性が考えられる。縄文時代の遺物包含層で厚く堆積し、場所によっては70㎝を超える堆積も見られた。縄文時代の遺構構築時の生活面は本層中に存在していたと考えられる。

Ⅶ層　褐灰色土層(10YR4/1)　漸移層である。

Ⅷ層　明黄褐色火山灰層(10YR6/6)　As-YPの一次堆積層である。１区・２区で部分的に検出された。層厚は概ね10㎝で径５～30㎜の粗粒のテフラを主体としていた。



第８図　基本土層(Ｓ＝1/20)

Ⅸ層　灰黄褐色ローム層(10YR4/2)　Ⅷ層のAs-YPが点在する。

Ⅹ層　明黄褐色ローム層(10YR6/8)　本層上面より約30㎝下位までのロームの堆積を確認した。

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　概要(第１・３表)

検出された遺構は、縄文時代の遺構と平安時代から中世の遺構である。

遺物は、遺物収納コンテナ箱２箱分が出土した。大部分の遺物が縄文土器で、ほかに縄文石器が少量であった。このほか、遺構外から古代以降の土師器の小破片が１点、近世以降の陶磁器の小破片が６点出土した。これらの遺物は小破片であるため、掲載遺物から除外した。また、１区２号復旧坑から鉄製品が２点出土した。鉄製品はいずれも釘と推定されるが、復旧坑に伴うものではなく近世以降の混入の可能性が高く、しかも小破片であることから掲載遺物から除外した。

第３表　検出された遺構

時代	遺物集中	土坑	ピット	復旧坑	総計
縄文	1	16	32		49
平安				5	5
中世				1	1
総計	1	16	32	6	55

第２節　縄文時代の遺構と遺物

(１)遺構(第３表、第10図)

検出された縄文時代の遺構は、遺物集中１か所、土坑16基、ピット32基であった。

(２)遺物(第４～７表、第９図)

出土した縄文時代の遺物は、縄文土器計590点、縄文石器計33点であった。動物・植物遺存体などの有機質遺物は検出されなかった。

① 縄文土器(第４表・第９図、遺物観察表)

出土した縄文土器について、小破片を含め全点を対象として遺構ごとに型式別に分類し、接合と補強・復元作業を行い、型式別に点数を集計した。接合後の合計が計590点である。なお、点数は接合後の破片を集計したものであり、個体数を示したものではない。破片の点数であっても、土器型式から遺跡形成時期やその時間幅、変遷過程を推定するためには有効である。また、掲載遺物を抽出して実測・トレース作業を行い、属性を遺物観察表に記載した。掲載遺物は計74点とした。

縄文土器は、黒浜式、有尾式、黒浜・有尾式、諸磯ａ式、諸磯ｂ式に型式分類した。諸磯ｃ式は確認できなかった。なお、前期中葉の土器のうち黒浜式もしくは有尾式であるものの、どちらか判定できない土器については、黒浜・有尾式と表記、型式判定が明確にできないものの前期後葉の時期に相当する土器については、前期後葉と表記、縄文土器であるが型式判定ができない土器については、不明と表記した。

土器型式別の点数は、黒浜式２点、有尾式４点、黒浜・有尾式208点、諸磯ａ式296点、諸磯ｂ式51点、前期後葉26点、不明３点であった。諸磯ａ式が約半分を占め、次いで黒浜・有尾式が多く、両者で出土した土器の80％以上を占めていた。

遺構別の点数は、１号遺物集中が342点で半分以上を占めていた。２号土坑からは23点が出土したが、ほかの土坑やピットからの出土点数は少なかった。このほか、１区遺構外で166点、２区遺構外で13点、３区遺構外で２点が一括回収された。土器は１区でまとまって出土しており、１区に縄文時代の遺物分布の中心があった可能性が考えられる。

このように出土した縄文土器は、前期中葉の黒浜式から前期後葉の諸磯ｂ式までのものであることが判明し、遺跡形成の時間幅はこの土器型式の範囲内にあるといえる。このうち諸磯ａ式が最も多いことから、諸磯ａ式の時期に遺跡形成のピークがあったと推測される。

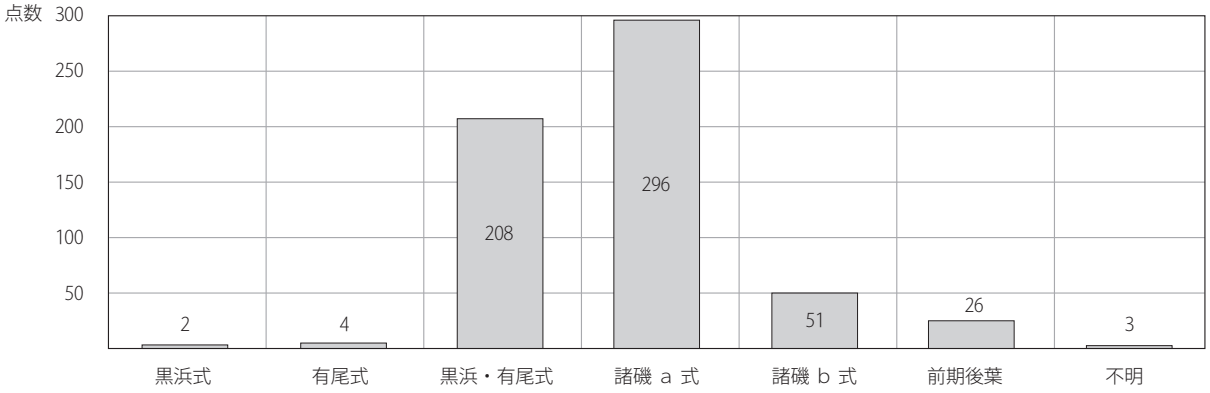
早期や中期、後期、晩期の遺物は検出されなかったため、本遺跡は前期中葉から後葉の時期に限定された縄文時代の遺跡であるといえる。

② 縄文石器(第５～７表、遺物観察表、石器一覧表)

出土した縄文石器計33点について、遺構別に器種分類と石材同定を行い、点数と重量を集計した。また、器種分類で、石鏃や二次加工剥片、磨石など、ツールと器種

第４表　縄文土器集計表(遺構別・土器型式別)

遺構番号	黒浜式	有尾式	黒浜・有尾式	諸磯ａ式	諸磯ｂ式	前期後葉	不明	総計
１号遺物集中		3	124	178	33	4		342
１号土坑			2			2		4
２号土坑			8	11		4		23
８号土坑			3			1		4
11号土坑			1	2				3
16号土坑			3	2				5
３号ピット			1	8		4		13
４号ピット			4	1				5
５号ピット			1	1				2
16号ピット			2	2				4
22号ピット			1					1
30号ピット				2				2
31号ピット						1		1
１区遺構外	1	1	53	85	18	7	1	166
２区遺構外	1		5	4		2	1	13
３区遺構外						1	1	2
総計	2	4	208	296	51	26	3	590



第９図　縄文土器型式別点数グラフ

判定した石器については掲載遺物だけでなく、全点を対象として属性(出土位置、石材、長さ・幅・厚さ・重量、特徴等)を観察し石器一覧表に記載した。剥片については、遺構別に石材同定し、石材別に点数を集計した。重量については石材別にまとめて計量した。

器種別にみると、計33点のうち、石鏃２点、二次加工剥片４点、原石(黒曜石製)２点、剥片21点、凹石３点、敲石１点であった。掲載遺物はこのうち計８点とした。

縄文石器は、縄文土器と同一時期のもので、黒浜式、有尾式から諸磯ｂ式土器に共伴する石器と考えられる。

(３)遺物集中(第10～13図)

1区で遺物集中が１か所検出された。

１号遺物集中(第11～13図、PL．４・14・15)

調査区　１区

座標値　Ｘ＝39784～3978　Ｙ＝-95422～-95426

規模　長さ：4.5m　幅：2.5m(調査区外)　深さ：20㎝

分布範囲は調査区外に広がるため詳細不明である。南側で集中度がやや高くなる。

重複　１・２・３号ピット

第５表　縄文石器集計表(遺構別・器種別点数)

遺構番号	石鏃	二次加工剥片	原石	剥片	凹石	敲石	総計
１号遺物集中	1			1	3		5
２号土坑		1	1				2
４号土坑				1			1
６号土坑		1					1
７号土坑				1			1
８号土坑		1					1
３号ピット				1			1
31号ピット				1			1
１区遺構外	1	1	1	8		1	12
２区遺構外				6			6
３区遺構外				2			2
総計	2	4	2	21	3	1	33

第６表　縄文石器集計表(器種別・石材別点数)

器種	黒曜石	黒色安山岩	珪質頁岩	黒色頁岩	花崗岩	細粒輝石安山岩	粗粒輝石安山岩	溶結凝灰岩	流紋岩	総計
石鏃	2									2
二次加工剥片	1	1	1	1						4
剥片	9			4		6		1	1	21
原石	2									2
凹石					1		1	1		3
敲石							1			1
総計	14	1	1	5	1	6	2	2	1	33

第７表　縄文石器集計表(器種別・石材別重量)

器種	黒曜石	黒色安山岩	珪質頁岩	黒色頁岩	花崗岩	細粒輝石安山岩	粗粒輝石安山岩	溶結凝灰岩	流紋岩	総計
石鏃	1.2									1.2
二次加工剥片	1.9	64.2	22.3	21.4						109.8
剥片	18.3			65.3		157.6		9.2	0.9	251.3
原石	11.5									11.5
凹石					333.4		499.0	383.1		1215.5
敲石							170.2			170.2
総計	32.9	64.2	22.3	86.7	333.4	157.6	669.2	392.3	0.9	1759.5

出土遺物　土器：計342点(有尾式３点、黒浜・有尾式124点、諸磯ａ式178点、諸磯ｂ式33点、前期後葉４点)、石器計５点(石鏃１点、剥片１点、凹石３点)。土器が比較的多く出土した一方で、石器は少なく特に剥片はわずか１点だけであった。

有尾式土器は、地文のRL縄文に横位平行沈線を施文したもの、連続爪形文を施文したものがあり、いずれも胎土に繊維を含んでいた。

黒浜・有尾式土器は、LR・RL縄文を羽状施文したもの、LR縄文を横位施文したもの、RL縄文を横位施文したもの、附加条１種LRとL縄文を横位施文したものがあり、いずれも胎土に繊維を含んでいた。

諸磯ａ式土器は、０段多条LR縄文を横位施文したもの、横位・波状条線を多段に施文したもの、RL縄文を横位施文したものがあった。

諸磯ｂ式土器は、連続爪形文による菱形状モチーフを施文したもの、地文にRL縄文を横位施文し複数条の浮線をめぐらしたものがあった。

石鏃は、黒曜石製の凹基無茎鏃で右脚端部を欠損する。剥片は、黒曜石製で背面に礫面を大きく残し、素材が小型角礫(ズリ)であったことを示す。

凹石は、粗粒輝石安山岩・溶結凝灰岩・花崗岩製で、３点とも長さ・幅・厚さがほぼ同じ大きさで、偏平な楕円礫を素材とし、対向する表裏両面の中央部に凹みを持つ。また、43・45は表裏両面に顕著な摩耗痕が認められ、44は右側面が平坦化した顕著な敲打痕が認められた。これらの凹石は素材礫の形状や大きさが同じであることから、共通した機能を有する石器で手に持って堅果類の加工に利用したと考えられる。また、凹みや摩耗痕、敲打痕など複合した使用痕を持っており、対象物を擦る、敲くなどいくつかの用途に利用されたと考えられる。なお、石皿や台石は確認できなかった。

所見　１号遺物集中は、縄文時代前期中葉の有尾式土器から前期後葉の諸磯ａ式・諸磯ｂ式土器と石器で構成される。このうち諸磯ａ式土器が主体となる。前期中葉から前期後葉の時期に土器や石器の廃棄によって形成された遺物集中と考えられる。

また、遺物垂直分布の下部付近に当時の生活面が想定される。遺物は表土の下に厚く堆積した地山の黒色土(Ⅵ層)から検出され、4.5mほどの範囲にまとまっていた。配石や集石、炉などの遺構は確認できなかった。

平面分布をみると、南側で集中度がやや高くなる。垂直分布をみると、30cmほどの範囲内から出土しているが、重複した３号ピットの側面にも１号遺物集中の遺物がかかっており、まだ下位にも遺物が続く可能性を示す。このことから、１号遺物集中は当時の生活面に形成された遺物分布であることを示すだけでなく、縄文時代の竪穴建物の覆土の中に形成された遺物分布であった可能性も示すと考えられる。

(４)土坑(第10・14・15図)

土坑は１区から７基、２区から９基の計16基が検出された。３区からは検出されなかった。

１号土坑(第14図、PL.15)

調査区　１区

座標値　Ｘ＝39784　　Ｙ＝-95421・-95422

平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状

規模　長さ：48cm　幅：48cm　深さ：20cm

重複　なし

出土遺物　土器：４点(黒浜・有尾式２点、前期後葉２点)、石器：なし

所見　覆土の堆積状況や含有物、掘り込みが浅いことから、１号土坑は人為的な土坑ではなく自然地形の可能性がある。

２号土坑(第14図、PL．５・15)

調査区　１区

座標値　Ｘ＝39792・39793　　Ｙ＝-95429・-95430

平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状

規模　長さ：110cm　幅：79cm(調査区外)　深さ：34cm

重複　なし

出土遺物　土器：23点(黒浜・有尾式８点、諸磯ａ式11点、前期後葉４点)、石器：２点(二次加工剥片１点、黒曜石製原石(ズリ)１点)

黒浜・有尾式土器は口縁部破片でLR縄文を横位施文したもの、諸磯ａ式土器は口縁部破片と胴部破片でRL縄文を横位施文したものであった。

原石は、黒曜石製の小型角礫(ズリ)であった。

所見　掘り込みの浅い土坑である。土坑底面から、黒浜・

有尾式、諸磯ａ式、前期後葉の土器と石器が出土した。前期中葉から後葉の土坑と考えられる。

３号土坑(第14図、PL．５)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39765・39766　　Ｙ＝-95405・-95406
平面形状　不明　**断面形状**　皿状
規模　長さ：103cm(調査区外)　幅：37cm(調査区外)　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　土坑の半分近くが調査区外のため詳細不明。覆土の堆積状況や掘り込みが浅いことから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

４号土坑(第14図、PL．５)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39772・39773　Ｙ＝-95411・-95412
平面形状　円形　**断面形状**　筒状
規模　長さ：70cm　幅：35cm(調査区外)　深さ：23cm
重複　なし　**出土遺物**　石器：１点(剥片１点)
所見　円形･筒状を呈する土坑である。掘り込みは浅い。

５号土坑(第14図、PL．５)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39775・39776　　Ｙ＝-95415
平面形状　不整形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：46cm(調査区外)　幅：46cm　深さ：16cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　平面形状が不整形を呈し、掘り込みも浅いことから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

６号土坑(第14図、PL．５)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39809　　Ｙ＝-95443
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：71cm　幅：53cm　深さ：17cm
重複　なし　**出土遺物**　石器１点(二次加工剥片１点)
所見　楕円形・皿状を呈する土坑である。掘り込みが浅いため､人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

７号土坑(第14図、PL．５)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39813・39814　　Ｙ＝-95445・-95446
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：114cm　幅：48cm(調査区外)　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　石器：1点(剥片１点)
所見　円形・皿状を呈する土坑である。半分が調査区外のため詳細不明。掘り込みが浅く、底面もやや不整形であるため人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

８号土坑(第14図、PL．５・６・16)
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39833・39834　　Ｙ＝-95466・-95467
平面形状　不明　**断面形状**　不明
規模　長さ：95cm(調査区外)　幅：56cm(調査区外)　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　土器４点(黒浜・有尾式３点、前期後葉１点)、石器：1点(二次加工剥片１点)
所見　大部分が調査区外のため詳細不明。黒浜･有尾式、前期後葉の土器が出土したが、掘り込みが浅く底面もやや不整形であるため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

９号土坑(第15図、PL．６)
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39833　Ｙ＝-95467
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：70cm　幅：65cm　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈する土坑である。

10号土坑(第15図、PL．６)
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39834・39835　　Ｙ＝-95467・-95468
平面形状　長楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：140cm　幅：53cm　深さ：17cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　長楕円形を呈する土坑である。掘り込みが浅く底面も不整形であることから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

11号土坑(第15図、PL．６・16)
調査区　２区
座標値　X＝39837・39838　　Y＝-95472
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：74cm　幅：58cm　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　土器：３点(黒浜・有尾式３点)、石器：なし
所見　円形・皿状を呈し、掘り込みの浅い土坑である。黒浜・有尾式土器が出土した。

12号土坑(第15図、PL．６)
調査区　２区
座標値　X＝39840・39841　　Y＝-95475・-95476
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：70cm　幅：67cm　深さ：14cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈し掘り込みの浅い土坑である。

13号土坑(第15図、PL．６)
調査区　２区
座標値　X＝39841・39842　　Y＝-95476
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：62cm　幅：62cm　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈する掘り込みの浅い土坑で、底面は不整形であることから、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡の可能性がある。

14号土坑(第15図、PL．６)
調査区　２区
座標値　X＝39844　　Y＝-95479
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：76cm　幅：63cm　深さ：21cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈する掘り込みの浅い土坑である。

15号土坑(第15図、PL．６)
調査区　２区
座標値　X＝39845　　Y＝-95480・-95481
平面形状　円形　**断面形状**　筒状
規模　長さ：54cm　幅：51cm　深さ：30cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・筒状を呈する土坑で、ほかの土坑に比べ掘り込みはやや深い。

16号土坑(第15図、PL．７・16)
調査区　２区
座標値　X＝39846　　Y＝-95480・-95481
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：84cm　幅：44cm(調査区外)　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　土器：５点(黒浜・有尾式３点、諸磯ａ式２点)、石器：なし
所見　半分が調査区外のため詳細不明であるが、円形・皿状を呈する土坑と推測される。黒浜・有尾式、諸磯ａ式土器が出土した。底面が不整形で掘り込みも浅いことから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

(５)ピット(第10・16・17図)

ピットは１区から22基、２区から10基の計32基が検出された。

１号ピット　欠番

２号ピット(第16・17図、PL．７)
調査区　１区
座標値　X＝39785・39786　　Y＝-95424
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：29cm　幅：24cm　深さ：16cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　掘り込みの浅いピットで、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。また、覆土の含有物等からみて古代以降の可能性もある。

３号ピット(第16図、PL．７・16)
調査区　１区
座標値　X＝39786　　Y＝-95424・-95425
平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：51cm　幅：51cm　深さ：21cm
重複　１号遺物集中　**出土遺物**　土器13点(黒浜・有尾式１点、諸磯ａ式８点、前期後葉４点)、石器：１点(剥片)

諸磯ａ式土器は、いずれも胴部破片でRL縄文を横位施文したものであった。

所見　円形・擂鉢状を呈するピットである。1号遺物集中を切って構築される。ピットの側面や底面には１号遺物集中に帰属する遺物が出土している。また、覆土から回収された遺物は１号遺物集中にもともと帰属していた遺物の可能性がある。

４号ピット（第16図、PL．７・16）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39789　　Ｙ＝-95425～-95426
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：35㎝　幅：31㎝　深さ：20㎝
重複　なし　**出土遺物**　土器：５点（黒浜・有尾式４点、諸磯ａ式１点）、石器：なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットである。

５号ピット（第16図、PL．７）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39795　　Ｙ＝-95431
平面形状　円形　**断面形状**　筒状
規模　長さ：46㎝　幅：46㎝　深さ：32㎝
重複　なし　**出土遺物**　土器２点（黒浜・有尾式１点、諸磯ａ式１点）、石器：なし
所見　円形・筒状を呈するピットである。黒浜・有尾式、諸磯ａ式の土器が出土した。南側に６号ピットが隣接する。５号ピットと６号ピットは規模・深さがほぼ同じである。

６号ピット（第16図、PL．７）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39796　　Ｙ＝-95431
平面形状　楕円形　**断面形状**　筒状
規模　長さ：48㎝　幅：41㎝　深さ：26㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・筒状を呈するピットである。北側に５号ピットが隣接する。６号ピットと５号ピットは規模・深さがほぼ同じである。

７号ピット（第16図、PL．７）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39799　　Ｙ＝-95435
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：43㎝　幅：41㎝　深さ：18㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットであるが、掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

８号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39763　　Ｙ＝-95403
平面形状　楕円形　**断面形状**　筒状
規模　長さ：24㎝　幅：17㎝　深さ：37㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・筒状を呈するピットで、掘り込みはほかのピットよりも深い。やや斜めに掘り込まれているため、木根の痕跡の可能性もある。

９号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39564・39565　　Ｙ＝-95405
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：35㎝　幅：32㎝　深さ：11㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

10号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39766　　Ｙ＝-95406・-95407
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：35㎝　幅：25㎝　深さ：16㎝
重複　11号ピット　**出土遺物**　なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットで、11号ピットを切る。掘り込みは11号ピットと同じで浅いため、両ピットとも人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

11号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区

座標値　X＝39766　　Y＝-95407
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：33cm　幅：21cm　深さ：13cm
重複　10号ピット　**出土遺物**　なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットで、10号ピットに切られる。掘り込みは10号ピットと同じで浅いため、両ピットとも人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

12号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　X＝39769・39670　　Y＝-95409・-95410
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：40cm　幅：40cm　深さ：16cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

13号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　X＝39771・39772　　Y＝-95411
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：36cm　幅：28cm（調査区外）　深さ：21cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・擂鉢状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

14号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　X＝39771　　Y＝-95411・-95412
平面形状　円形　断面形状　擂鉢状
規模　長さ：52cm　幅：29cm（調査区外）　深さ：16cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットであるが、半分近くが調査区外のため詳細不明である。掘り込みが浅いため人為的な遺構ではなく、自然地形の可能性がある。

15号ピット（第16図、PL．８）
調査区　１区
座標値　X＝39776　　Y＝-95414・-95415
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：30cm（調査区外）　幅：22cm　深さ：12cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　掘り込みの浅いピットであるため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

16号ピット（第16図、PL．９）
調査区　１区
座標値　X＝39774　　Y＝-95414
平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：46cm　幅：21cm（調査区外）　深さ：13cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットで、半分は調査区外である。覆土の含有物をみると、縄文時代ではなく新しい時代の遺構の可能性がある。

17号ピット（第17図、PL．９）
調査区　１区
座標値　X＝39801　　Y＝-95442
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：47cm　幅：45cm　深さ：12cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

18号ピット（第17図、PL．９）
調査区　１区
座標値　X＝39801　　Y＝-95442
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：47cm　幅：45cm（調査区外）　深さ：12cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

19号ピット（第17図、PL．９）
調査区　１区
座標値　X＝39807・39808　　Y＝-95442
平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：57cm　幅：46cm　深さ：14cm
重複　なし　**出土遺物**　なし

所見　円形・擂鉢状を呈するピットである。東側に20号ピットが隣接する。19号・20号ともに掘り込みの深さは同じで浅い。

20号ピット（第17図、PL．９）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39807　　Ｙ＝-95441・-95442
平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：52㎝　幅：45㎝　さ：24㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットである。西側に19号ピットが隣接する。底面が不整形を呈することから、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

21号ピット（第17図、PL．９）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39808・39809　　Ｙ＝-95443・-9444
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：55㎝　幅：40㎝　深さ：８㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

22号ピット（第17図、PL．９）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39811・39812　　Ｙ＝-95444・-95445
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：41㎝　幅：26㎝　深さ：16㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・擂鉢状を呈するピットである。

23号ピット（第17図、PL．９・10）
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39813　　Ｙ＝-95446
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：52㎝　幅：42㎝　深さ：18㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・擂鉢状を呈するピットである。

24号ピット（第17図、PL.10）
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39834　　Ｙ＝-95468・-95469
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：54㎝　幅：40㎝　深さ：13㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

25号ピット（第17図、PL.10）
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39835　　Ｙ＝-95469
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：41㎝　幅：34㎝　深さ：14㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

26号ピット（第17図、PL.10）
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39836　　Ｙ＝-95469・-95470
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：45㎝　幅：36㎝　深さ：18㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

27号ピット（第17図、PL.10）
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39837　　Ｙ＝-95472・-95473
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：46㎝　幅：36㎝　ｖ深さ：13㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・皿状を呈するピットである。西側に28号ピットが隣接する。27号・28号ピットの掘り込みの深さと覆土はほぼ同じで、掘り込みも浅いため、二つのピットは人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

28号ピット（第17図、PL.10）
調査区　２区

座標値　X＝39837・39838　　Y＝-95473
平面形状　楕円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：45cm　幅：36cm　深さ：15cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・皿状を呈するピットである。東側に27号ピットが隣接する。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

29号ピット(第17図、PL.10)
調査区　２区
座標値　X＝39839　　Y＝-95473・-95474
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：43cm　幅：29cm　深さ：21cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　楕円形・擂鉢状を呈するピットである。

30号ピット(第17図、PL.10・11)
調査区　２区
座標値　X＝39839・39840　　Y＝-95474
平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：55cm　幅：55cm　深さ：20cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。

31号ピット(第17図、PL.11)
調査区　２区
座標値　X＝39845　　Y＝-95480
平面形状　楕円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：35cm　幅：28cm　深さ：10cm
重複　なし　**出土遺物**　石器：１点(剥片１点)
所見　楕円形・擂鉢状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

32号ピット(第17図、PL.11)
調査区　２区
座標値　X＝39845　　Y＝-95480
平面形状　円形　**断面形状**　擂鉢状
規模　長さ：25cm　幅：24cm　深さ：10cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・擂鉢状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

33号ピット(第17図、PL.11)
調査区　２区
座標値　X＝39844・39845　　Y＝-95480
平面形状　円形　**断面形状**　皿状
規模　長さ：44cm　幅：37cm　深さ：10cm
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　円形・皿状を呈するピットである。掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の可能性がある。

(６)遺構外出土遺物(第18図、第４～７表)

土器については、１区で計166点、２区で計13点、３区で計２点の合計181点を回収した。土器型式は、黒浜式、有尾式、黒浜・有尾式、諸磯ａ式、諸磯ｂ式、前期後葉、不明である。このうち、諸磯ａ式が最も多かった。

黒浜式土器は、口縁部下位にコンパス文を施文したものがあった。

有尾式土器は、波状口縁で連続爪形文を施文したものがあった。

黒浜・有尾式土器は、LR・RL縄文を羽状施文したもの、附加条１種RL＋ｒ縄文を横位施文したもの、平行沈線をめぐらしたものがあった。

諸磯ａ式土器は、波状口縁で連続爪形文を複数段施文したもの、RL縄文を地文とし円形竹管刺突を縦位に施文したもの、RL縄文を横位施文し口縁に小突起を付したもの、RL縄文を横位施文したものなどがあった。

諸磯ｂ式土器は、連続爪形文を縦位と渦巻状に施文したもの、RL縄文を地文とし複数条の浮線を横位にめぐらしたもの、平行沈線による斜格子目文を施文したものなどがあった。

石器については、１区で計12点、２区で計６点、３区で計２点の合計20点を回収した。

石鏃は黒曜石製で長脚の凹基無茎鏃、原石は黒曜石製の小型角礫(ズリ)が確認された。

第３節　平安時代以降の遺構と遺物

（１）概要（第１・３表）

検出された平安時代以降の遺構は、復旧坑が計６基である。ほかに遺構は検出されなかった。６基のうち、５基が平安時代、１基が中世と判定した。

遺物は、遺構外から土師器の小破片が１点、陶磁器の小破片が６点出土した。これらはいずれも小破片である。ほかに、１区２号復旧坑から釘と推定される鉄製品の小破片が２点出土した。２点とも復旧坑に共伴するものではなく、近世以降の混入品の可能性が高い。これらの遺物は掲載対象から除外した。

（２）復旧坑の概要

本遺跡で検出された復旧坑とは、As-Bによって埋没した畑を復旧させるために、溝状の穴を掘って火山灰（As-B）と黒色土（耕作土）を天地返しした遺構のことである。形成時期は、1108年のAs-B降灰直後で、平安時代終わり頃と考えられる。

復旧坑は、１区で未検出部分があるものの今回の調査範囲（長さ約230m）の広範囲から検出された。したがって、As-B降灰当時には大規模な畑が存在し、As-B降灰でその畑が被災しても復旧していたといえる。

（３）復旧坑の形成時期

復旧坑の形成時期については、１号復旧坑と３～６号復旧坑は同一時期で、As-B降灰（1108年）直後の平安時代終わり頃に形成されたものと考えられる。一方、２号復旧坑は３号復旧坑を切るため３号復旧坑よりも新しい。詳細な時期については、共伴遺物がなかったため不明であるが、平安時代の終わり頃以降から中世の間と推定され、覆土から中世の可能性が高いと判定した。

（４）復旧坑の形成過程

復旧坑の形成過程には次のような段階が考えられる。

①まず当時の畑の地表面を覆ったAs-Bを部分的に除去する　→　②次に溝状の穴を掘ってAs-B直下の黒色土（もとの畑の耕作土（Ⅵ層））を採掘する　→　③次に溝状の穴の中にAs-B（As-B純層（Ⅴ層））を埋め、その上に黒色土を埋め戻す。この時の黒色土は採掘の際にAs-Bが混ざったAs-B混土層（Ⅳ層・Ⅳ´層）になっている。

この結果、溝状の穴の中の土層には、下がAs-B純層、上がAs-B混土層の堆積となり、火山灰と耕作土の天地が入れ替わった状態になる。このAs-B混土層が復旧後の畑の耕作土である。なお、As-B純層とは天地返しにより人為的に埋め戻された純度の高いAs-Bのことであり、一次堆積層ではない。

また、３号復旧坑の底面にみられた複雑な凹凸面は復旧坑の穴を掘ったときの掘り方である。凹凸の深さは、多少の違いがあるがほぼ同じ深さであり、一定の深さを意図して黒色土を掘ったといえる。

（５）復旧坑（第19～24図）

次に、検出された各復旧坑について示す。なお、規模の項目で示した数値は調査範囲内で計測できた数値を示したものである。

１号復旧坑（第20図、PL.12）

調査区　１区

座標値　Ｘ＝39761～39777　Ｙ＝-95402～-95416

規模　長さ：19.76m　幅：1.08m　深さ：16㎝

重複　なし　**出土遺物**　なし

所見　長さ19.76m・幅1.08mの範囲で検出された。調査範囲が限定的であったため、復旧坑全体の規模は不明である。復旧坑の底面は複数の溝状の穴の掘り方が連なったものである。溝状の穴は北東方向から南西方向に延びるものである。

土層堆積は、Ⅳ層・Ⅳ´層・Ⅴ´層が埋め戻された耕作土である。Ⅴ層（As-B純層）はAs-Bの純度が高いものの、埋め戻された二次堆積のテフラで一次堆積層ではない。また、Ⅴ層が復旧坑の底面にわずかしか残存していないのは、次々と溝状の穴を掘ったときに切られていったからである。Ⅳ層は平面的に広く堆積し、これが復旧後の耕作土である。Ⅳ′層は西側を切るように東側に向かってブロック状に堆積している。

この土層堆積から、１号復旧坑は西側から東側方向に向かって次々と掘られたことがわかる。地形は西から東に向かって傾斜しているので、標高の高い西側から低い東側に向かって復旧坑を掘っていき天地返ししたと考え

られる。

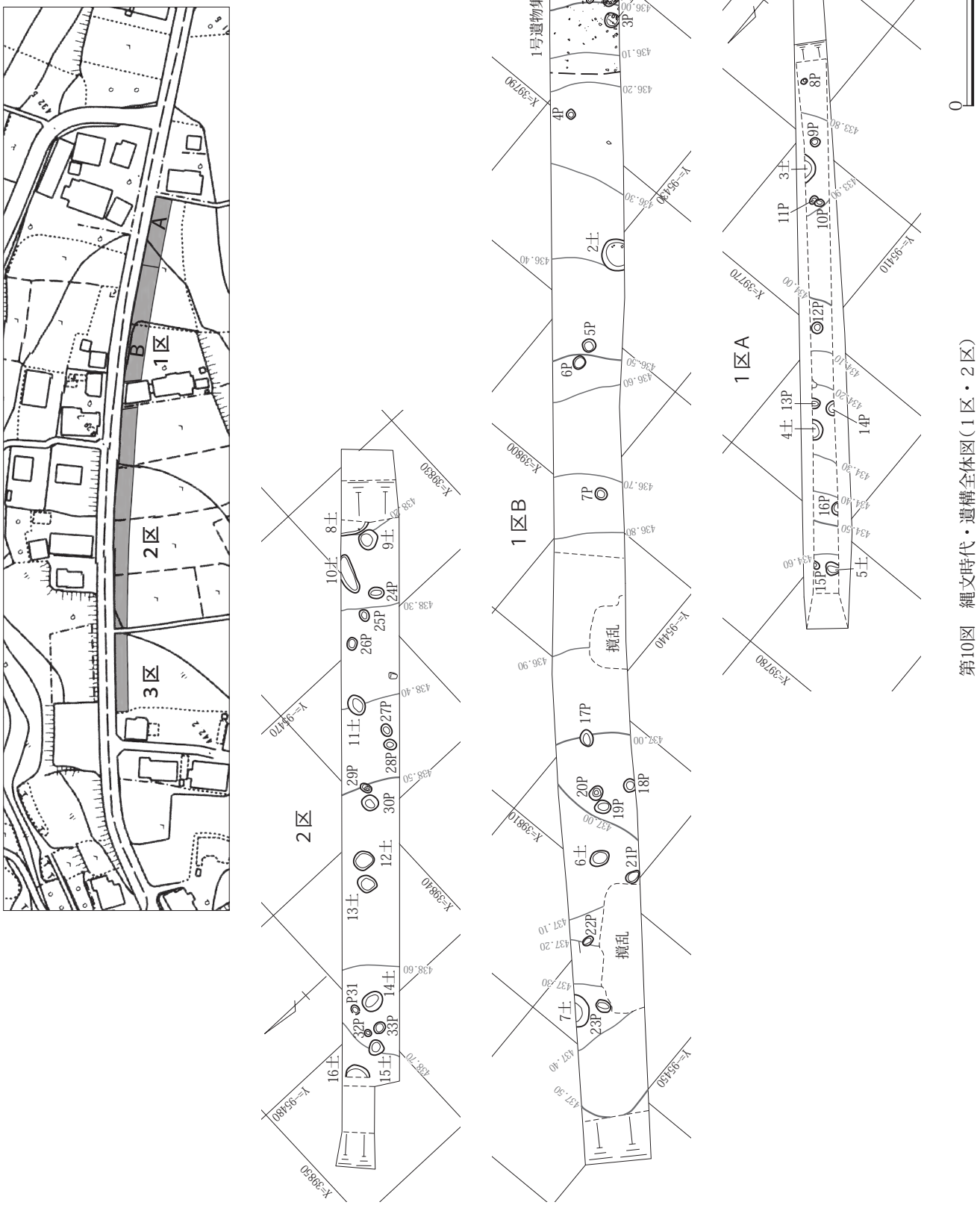
２号復旧坑(第21図、PL.12)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39801～39817　Ｙ＝-95436～-95450
規模　長さ：18.52m　幅：2.68m　深さ：73㎝
３号復旧坑と重複し、規模は３号復旧坑の範囲とした。
重複　３号復旧坑　**出土遺物**　なし
所見　２号復旧坑は、同一方向に並走して掘られた複数の溝状の穴から成る。復旧坑というよりも耕作に伴う溝の可能性がある。３号復旧坑を切るため、３号復旧坑よりも新しく、切り合い関係や土層堆積から中世と推定した。ただし、共伴遺物がないため詳細な時期については判定できなかった。

３号復旧坑(第21図、PL.13)
調査区　１区
座標値　Ｘ＝39801～39817　Ｙ＝-95436～-95450
規模　長さ：18.52m　幅：2.68m　深さ：15㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　溝状に掘られた復旧坑である。底面の凹凸が著しい。溝状の穴は北東から南東方向に掘られているが、東半部では北から南方向へと向きが変化する。１号復旧坑のブロック状の土層堆積とは違って平面的な土層堆積を示し、埋め戻されたAs-B純層が底面直上に平面的に堆積していた。３号復旧坑は、１号復旧坑のように溝状の穴を連続的に掘ったものではなく、ある程度平面的に広く掘ってから耕作土を入れ替えた天地返しであった可能性が考えられる。

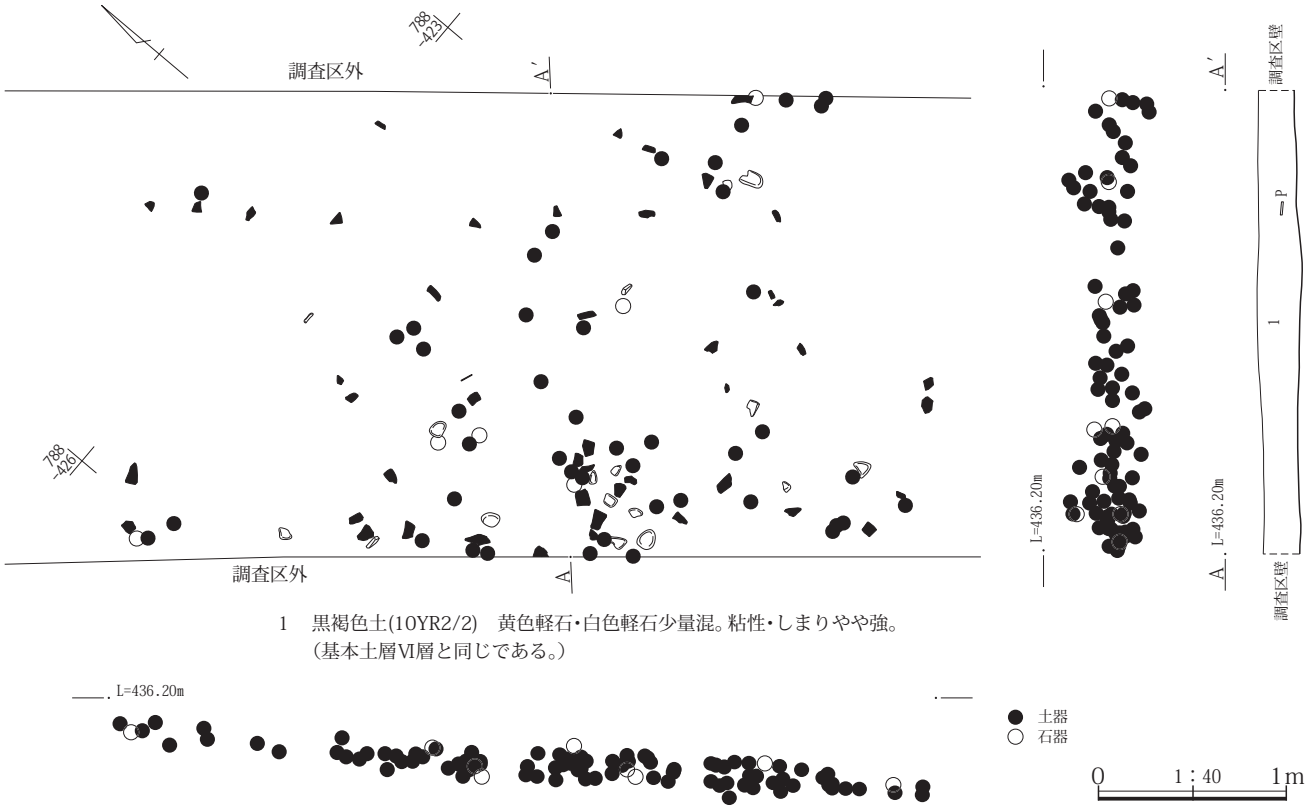
４号復旧坑(第22図、PL.13)
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39831～39848　Ｙ＝-95465～-95482
規模　長さ：23.12m　幅：1.96m　深さ：15㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　溝状に掘られた復旧坑である。溝状の穴はほぼ等間隔で掘られ、底面の凹凸が著しい。
Ｖ層(As-B純層)とⅣ層(As-B混土層)は平面的に広く堆積しており、１号復旧坑で確認された同一方向に順序良く切りあい関係を持つ溝状の堆積状況とは異なっていた。なお、Ｖ層は埋め戻されたAs-Bで、一次堆積層ではない。
４号復旧坑は、ある程度の広い範囲を平面的に掘ってから黒色土を採掘し、その後Ｖ層をまず埋め戻し次にⅣ層を埋め戻して、天地返ししたと推測される。

５号復旧坑(第23図、PL.13)
調査区　２区
座標値　Ｘ＝39852～39893　Ｙ＝-95487～-95534
規模　長さ：61.6m　幅：1.5m　深さ：18㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　溝状に掘られた復旧坑である。底面の凹凸が著しい。土層堆積の記録と観察は部分的であったが、基本的に３号復旧坑と同じ方法で天地返しした復旧坑と推測される。

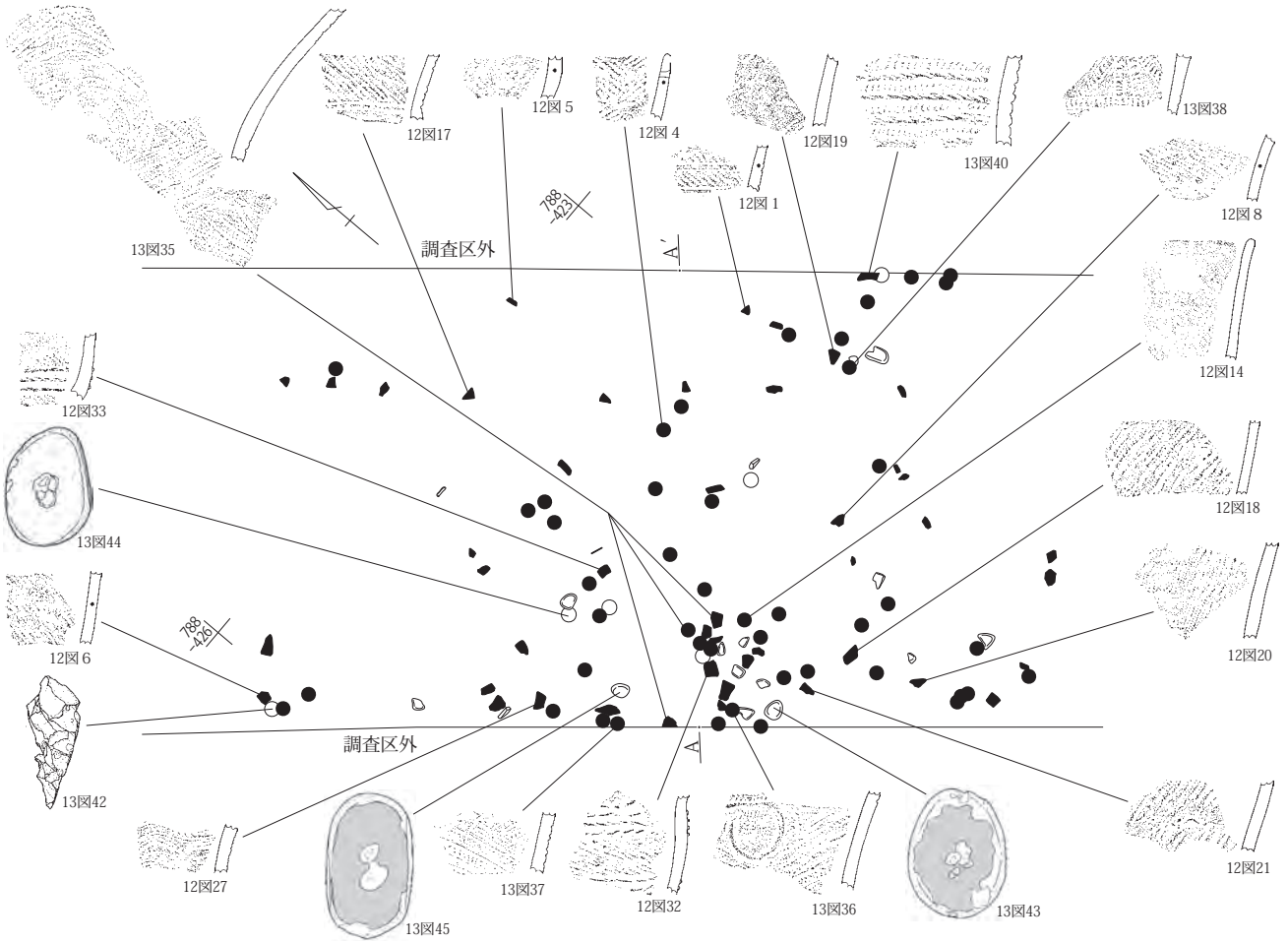
６号復旧坑(第24図、PL.13)
調査区　３区
座標値　Ｘ＝39896～39915　Ｙ＝-95538～95562
規模　長さ：30.8m　幅：0.3m　深さ：８㎝
重複　なし　**出土遺物**　なし
所見　調査幅が狭かったため、詳細は確認できなかったが、底面の凹凸が著しい溝状に掘られた復旧坑と推測される。土層堆積は部分的にしか観察できなかったが、基本的に３号復旧坑と同じ方法で採掘され、埋め戻された復旧坑と推測される。



第10図　縄文時代・遺構全体図（１区・２区）



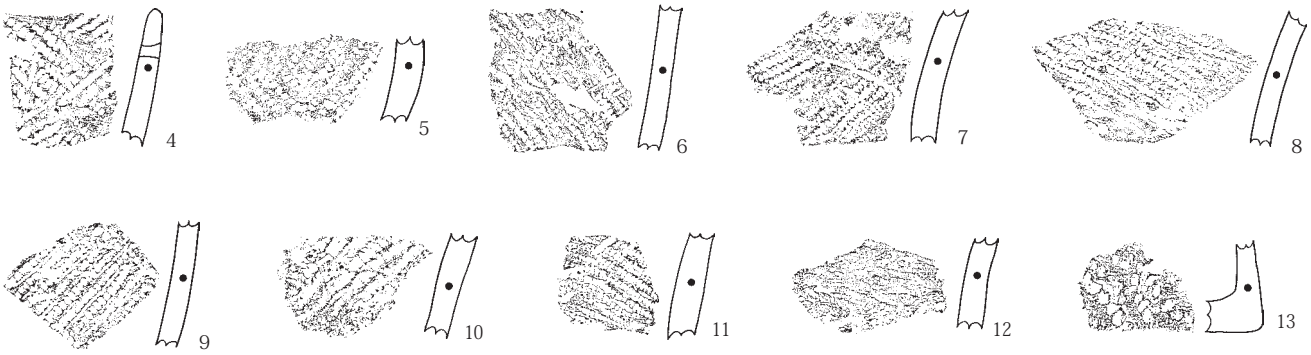
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石・白色軽石少量混。粘性・しまりやや強。
（基本土層Ⅵ層と同じである。）



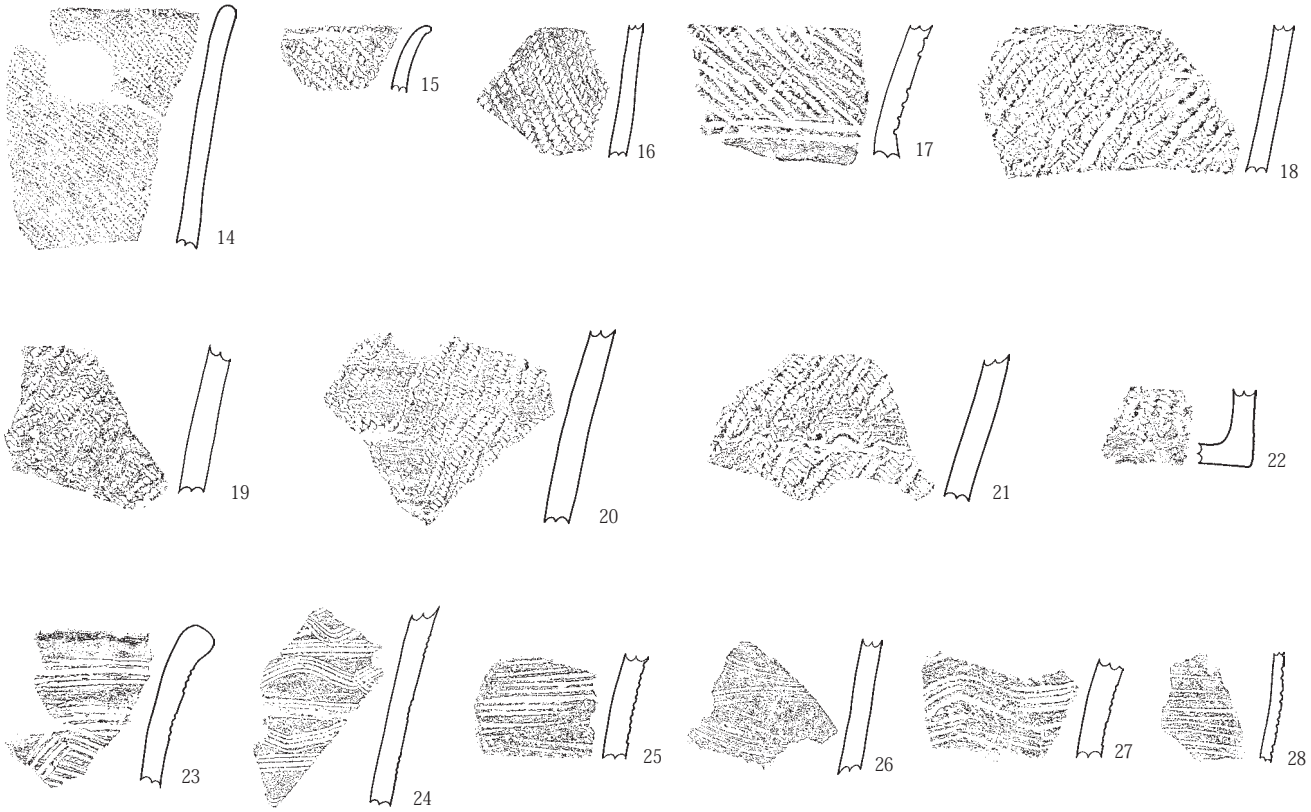
第11図　1区1号遺物集中遺物分布図

有尾式

黒浜・有尾式



諸磯ａ式

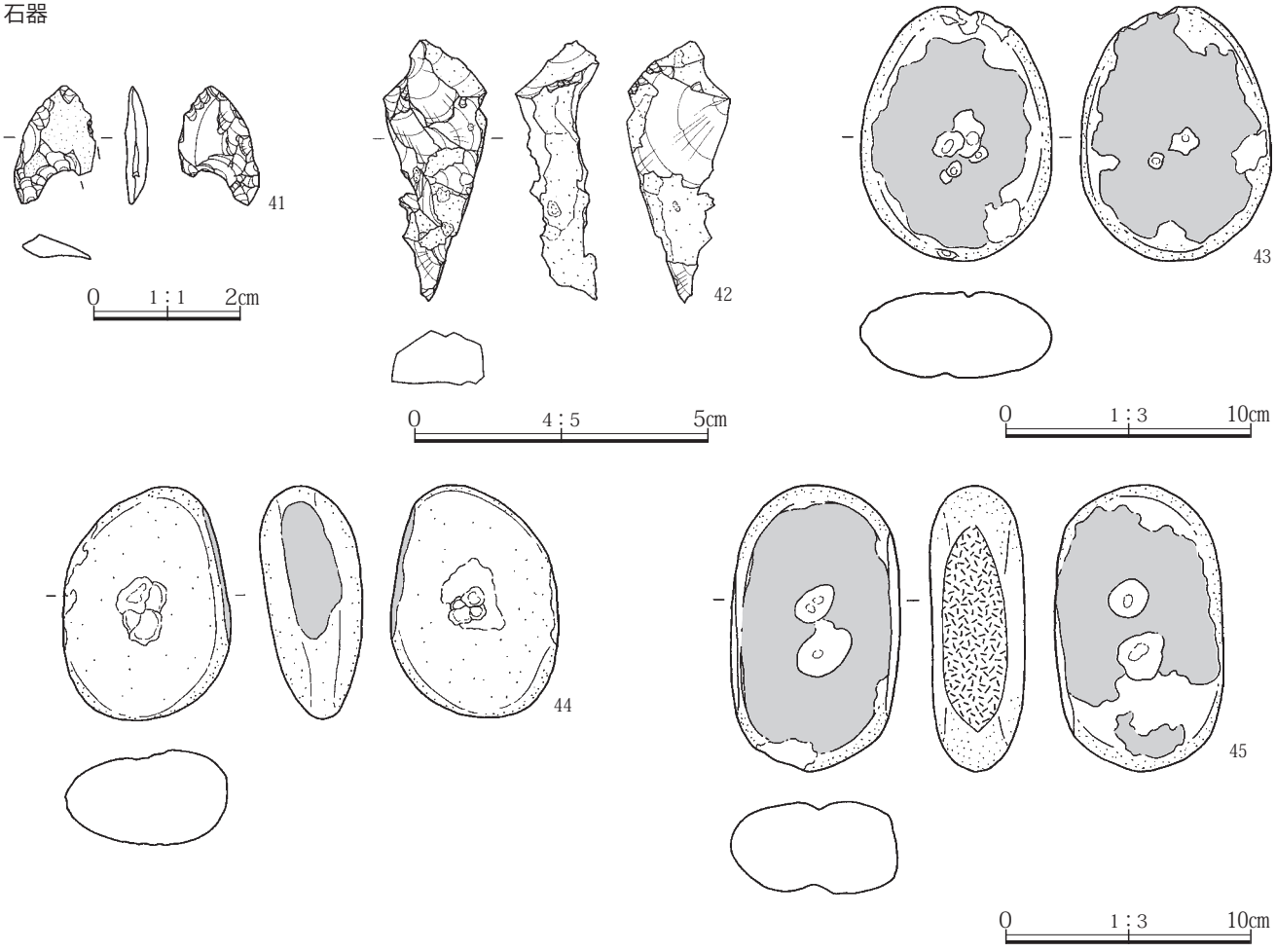


諸磯ｂ式

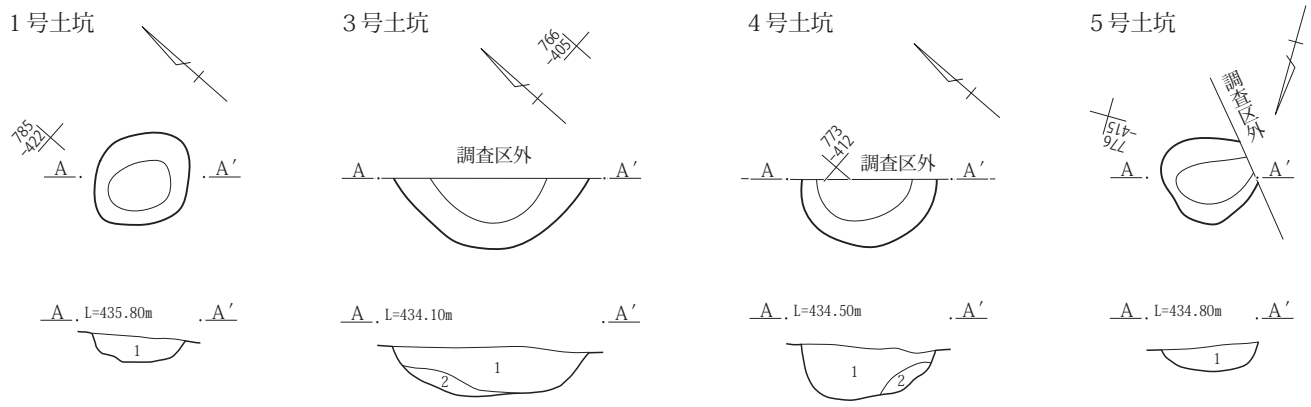
第12図　１区１号遺物集中出土遺物（１）

諸磯ｂ式

石器



第13図　１区１号遺物集中出土遺物（２）

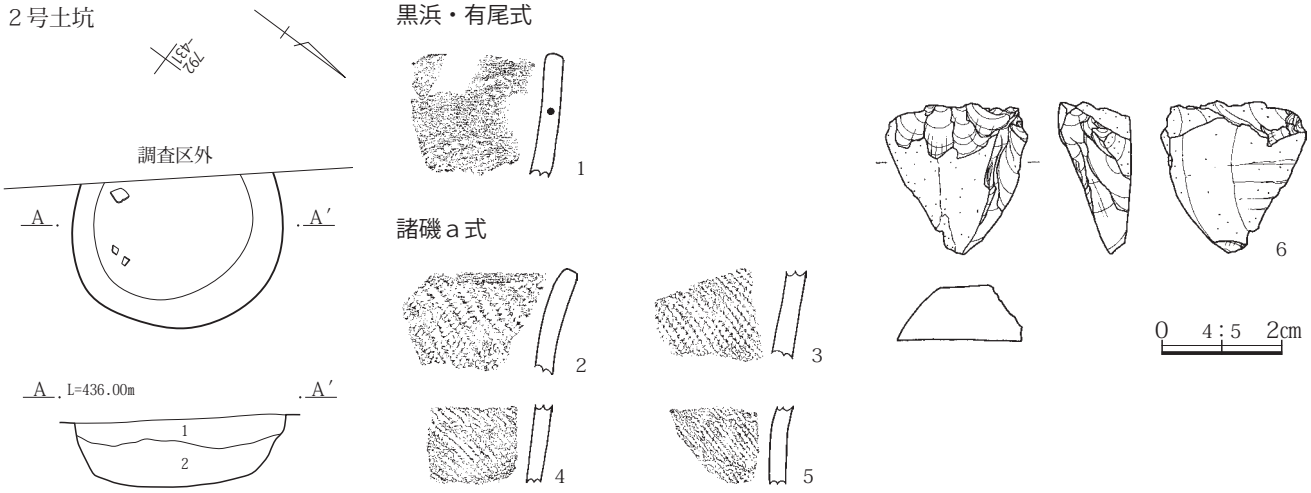


1号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色・白色軽石少量混。粘性・しまりやや強。

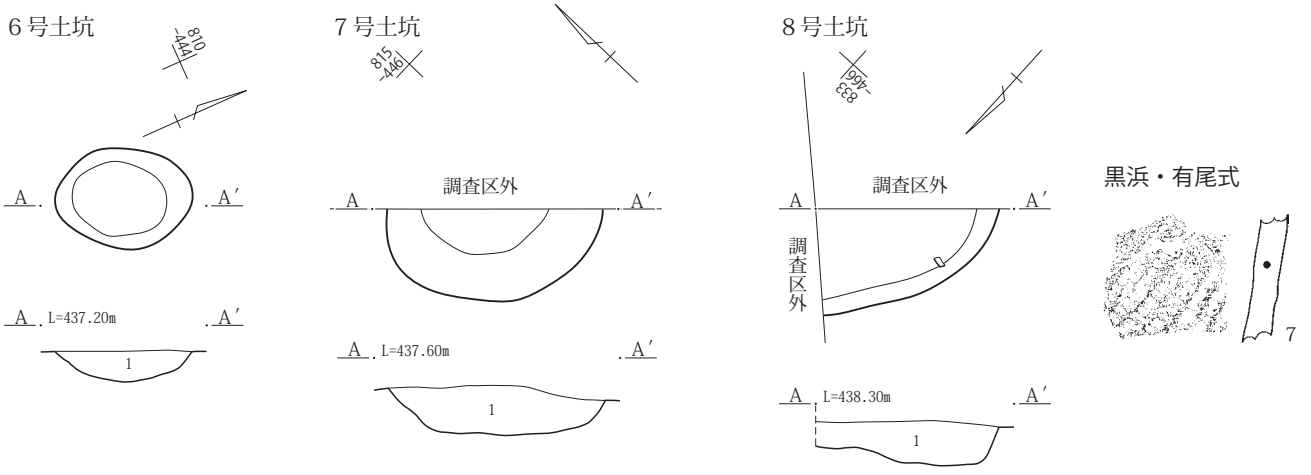
3号土坑
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石微量混。粘性・しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石・黄色粒子微量混。粘性やや強、しまりやや弱。

4号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石中量混。粘性やや弱、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　褐色土ブロック(小)中量混。粘性やや弱、しまりやや強。

5号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石微量混。粘性・しまりやや強。



2号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)　黄色軽石・白色粒子・黒色土ブロック(中～小)少量混。粘性・しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石・白色粒子少量混。粘性・しまりやや強。



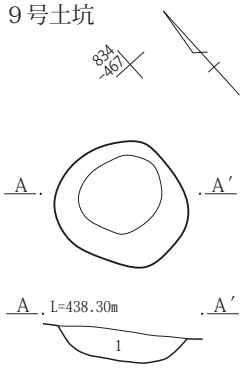
6号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・黄色粒子微量混。粘性・しまりやや強。

7号土坑
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石極微量混。粘性・しまりやや強。

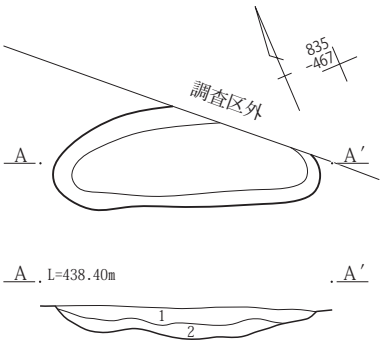
8号土坑
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石・白色粒子極微量混。粘性・しまりやや強。

第14図　縄文時代の土坑(１)

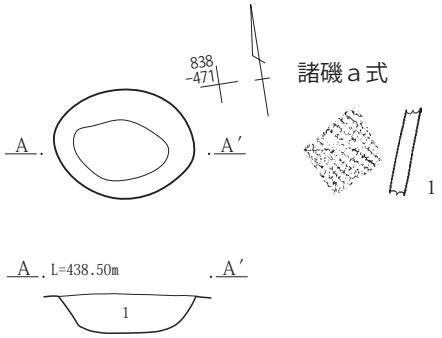
9号土坑



10号土坑



11号土坑

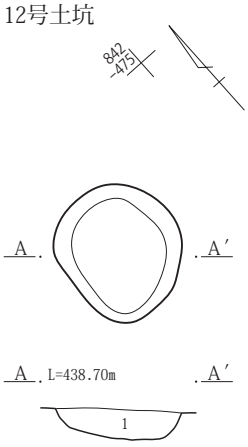


9号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。

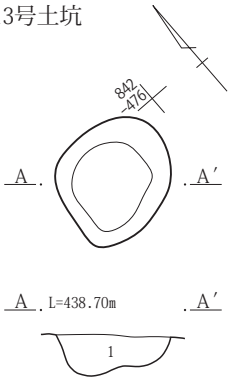
10号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/3)　黒色土ブロック(小)微量混。粘性･しまりやや強。

11号土坑
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石･白色粒子微量、黒褐色土ブロック(大～中)少量混。粘性・しまりやや強。

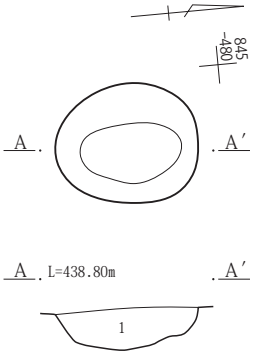
12号土坑



13号土坑



14号土坑

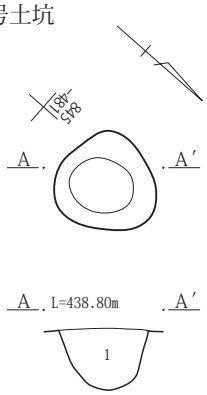


12号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。

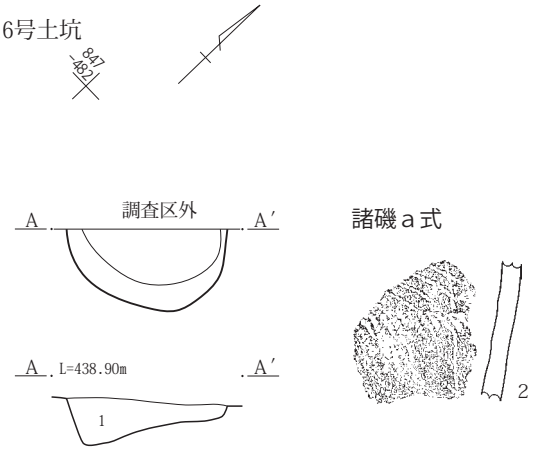
13号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。

14号土坑
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。

15号土坑

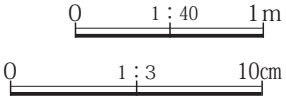


16号土坑

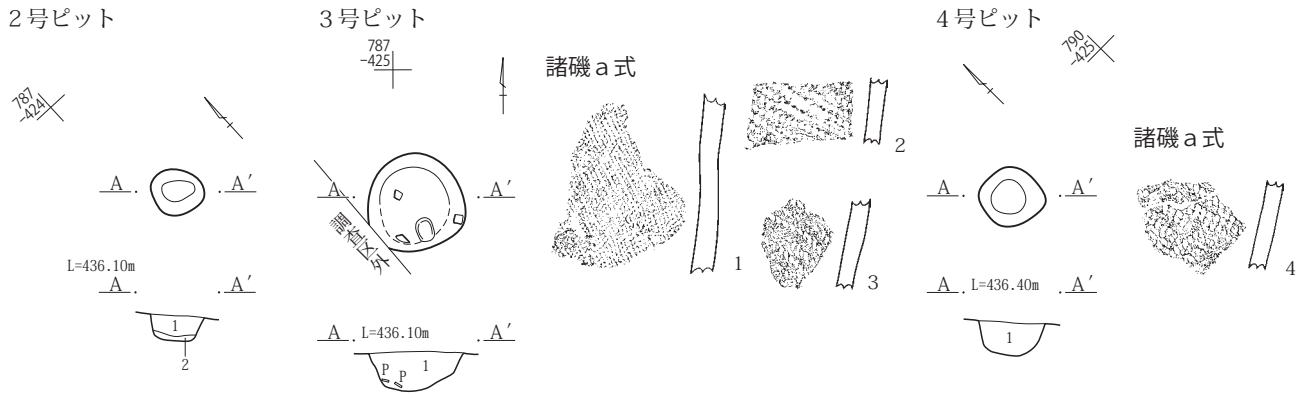


15号土坑
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。

16号土坑
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。



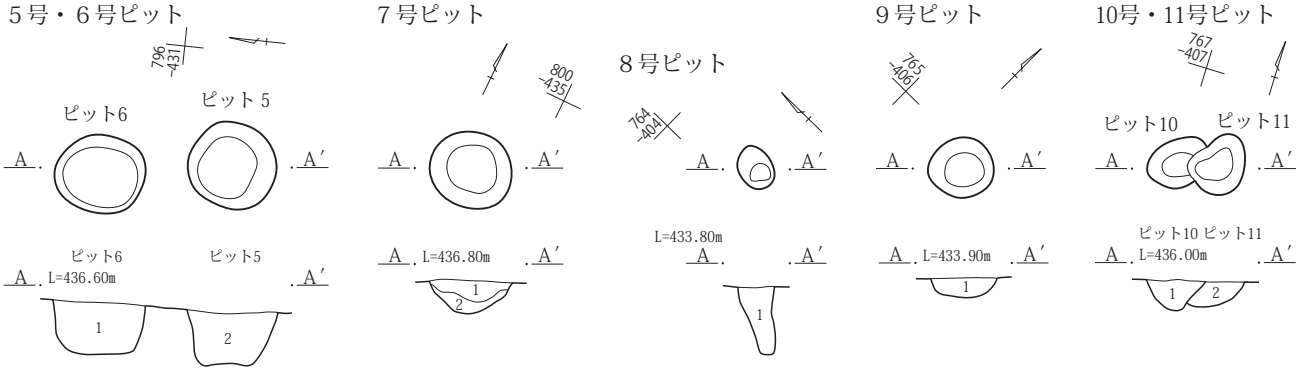
第15図　縄文時代の土坑(２)



２号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/3)　白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。　地山？

４号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。

３号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色・白色軽石少量混。粘性・しまりやや強。



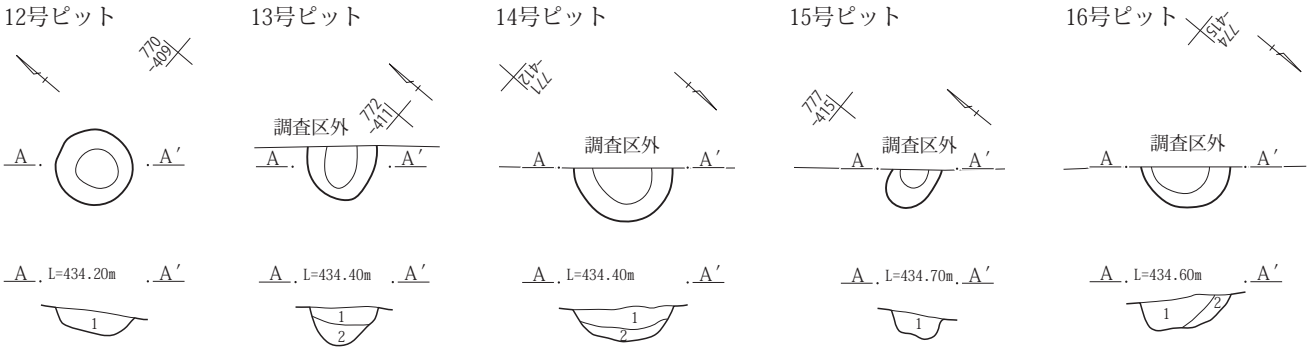
５・６号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石微量混。粘性・しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　褐色軽石・白色粒子極微量混。粘性・しまりやや強。

７号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色・白色粒子極微量混。粘性・しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/3)　黒色土ブロック(小)中量混。粘性･しまりやや強。

８号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　細砂微量混。粘性やや強、しまりやや弱。

９号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色粒子極微量混。粘性やや強、しまりやや弱。

10号・11号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石極微量混。粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石微量、褐色土ブロック(小)少量混。粘性やや強、しまりやや弱。



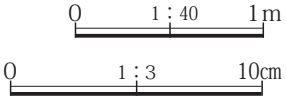
12号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石極微量混。粘性・しまりやや強。

13号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　細砂・粗砂少量混。粘性・しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黒褐色土ブロック(小)少量混。粘性・しまりやや強。

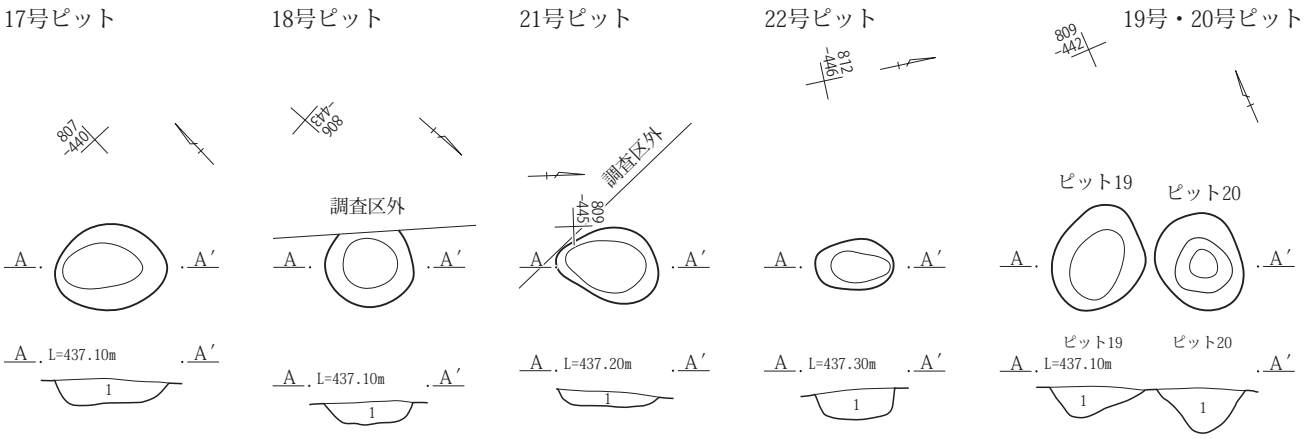
14号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石少量混。粘性・しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石・地山ブロック(小)微量混。粘性・しまりやや強。

15号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや弱。

16号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石中量混。粘性・しまりやや強。
2　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石極微量混。粘性・しまりやや強。

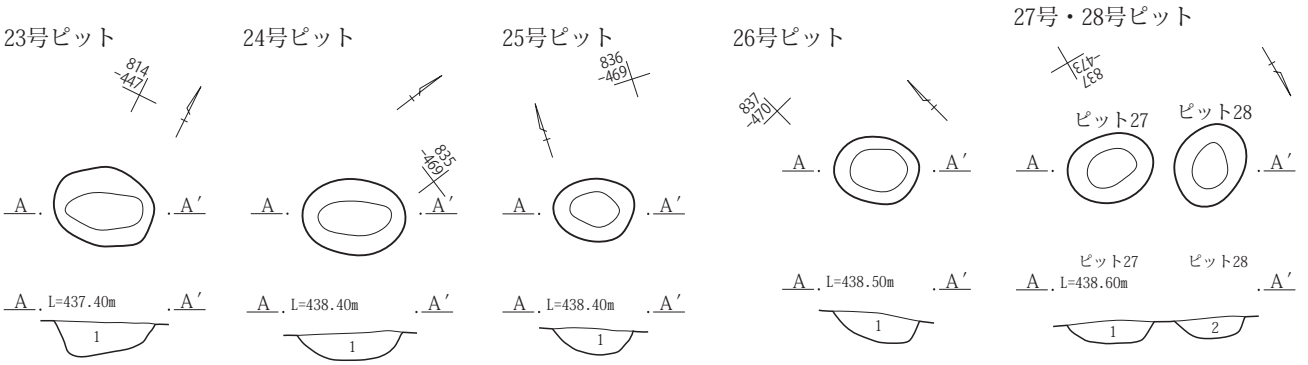


第16図　縄文時代のピット(１)



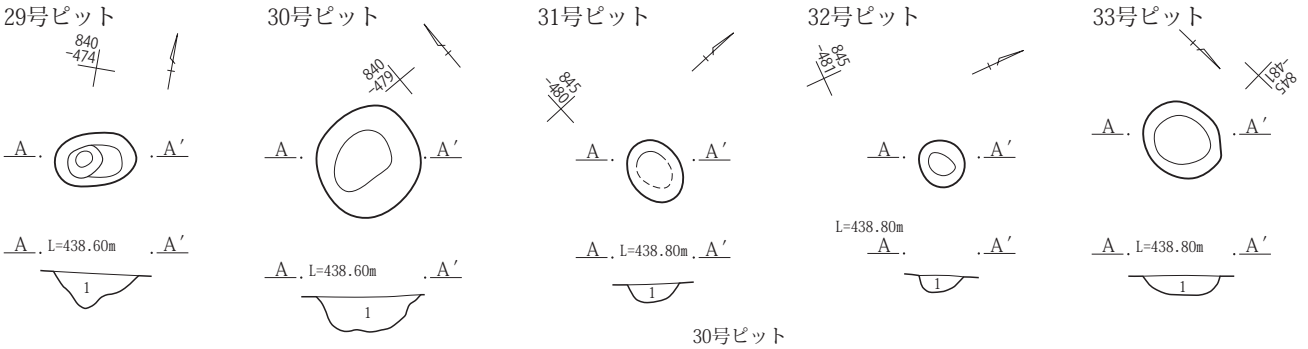
17号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石中量混。粘性・しまりやや強。
18号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色軽石･黄色粒子少量混。粘性･しまりやや強。
21号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石･黄色粒子微量混。粘性･しまりやや強。

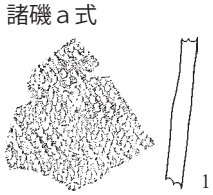
19号・20号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
22号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石極微量混。粘性・しまりやや強。



23号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石微量混。粘性・しまりやや強。
24号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
25号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石･白色粒子､極微量混｡粘性･しまりやや強。

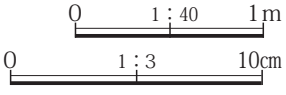
27号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子、極微量混。粘性やや強、しまりやや弱。
26号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。
28号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石･白色粒子､極微量混｡粘性･しまりやや強。





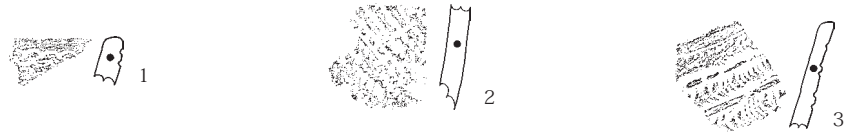
29号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。

30号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石･白色粒子微量混。粘性･しまりやや強。
31号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石中量混。　粘性・しまりやや強。
32号ピット
1　黒色土(10YR2/1)　黄色軽石・白色粒子微量混。粘性・しまりやや強。
33号ピット
1　黒色土(10YR1.7/1)　黄色粒子・白色粒子、極微量混。粘性・しまりやや強。

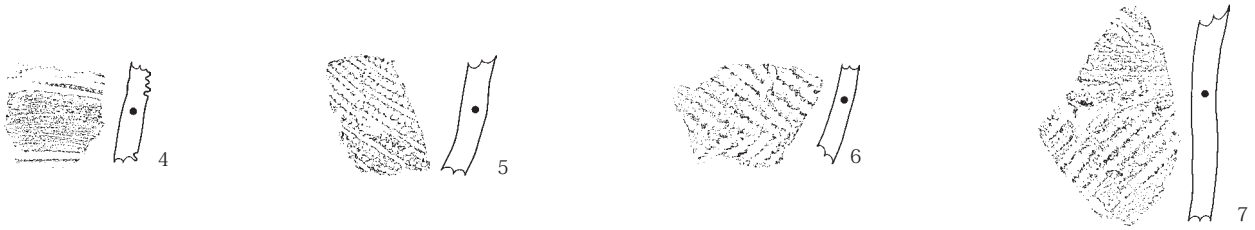


第17図　縄文時代のピット(２)

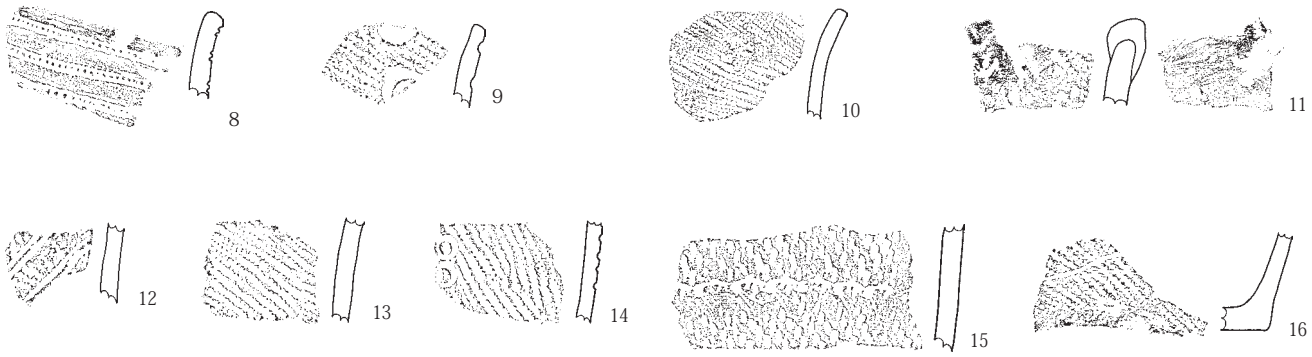
黒浜式



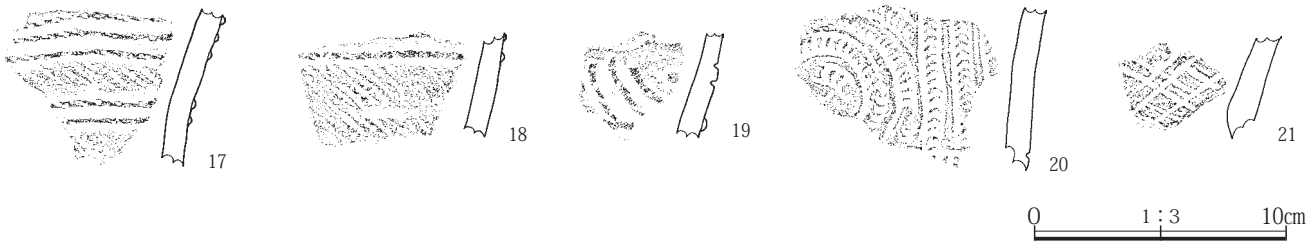
黒浜・有尾式



諸磯ａ式

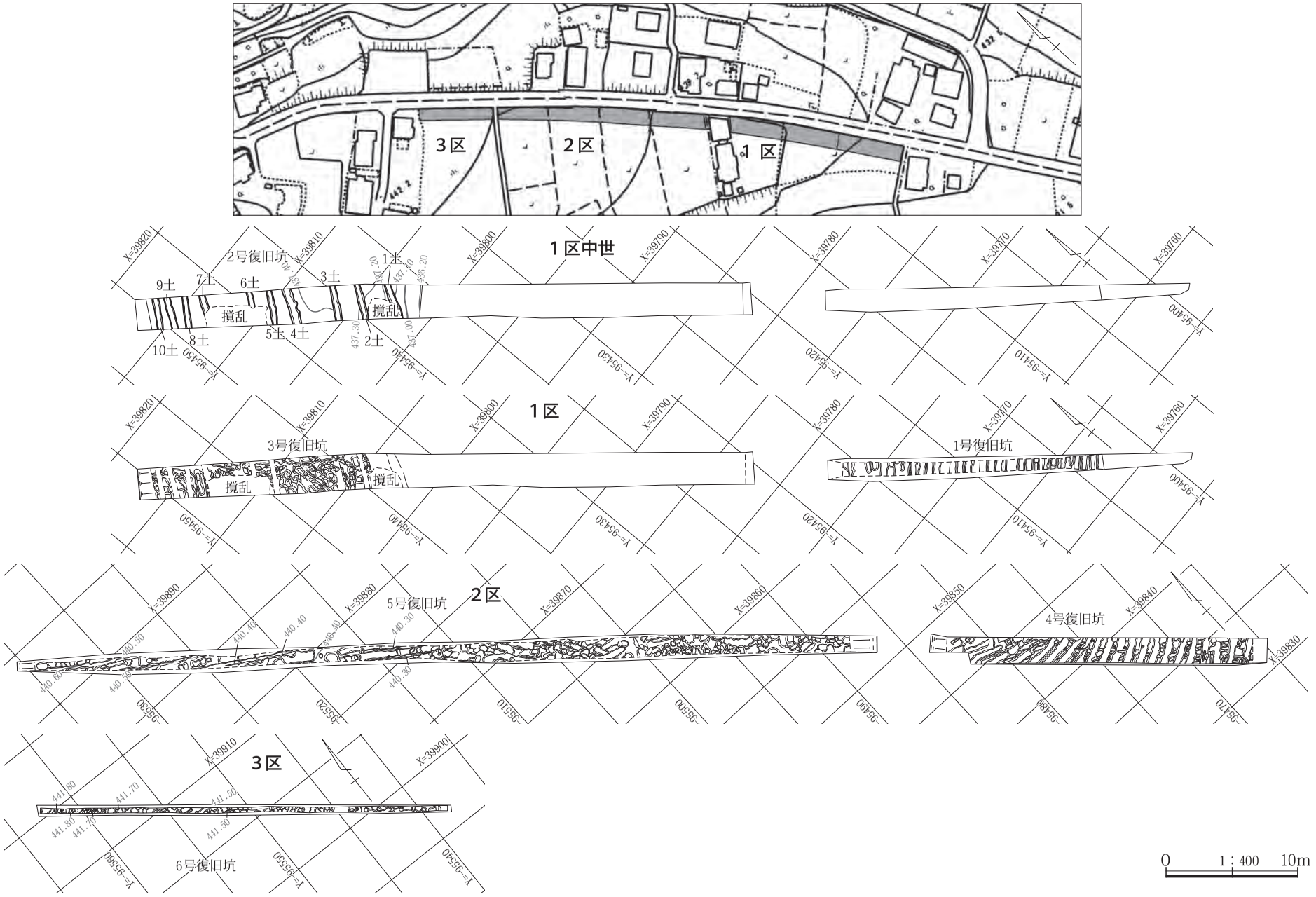


諸磯ｂ式



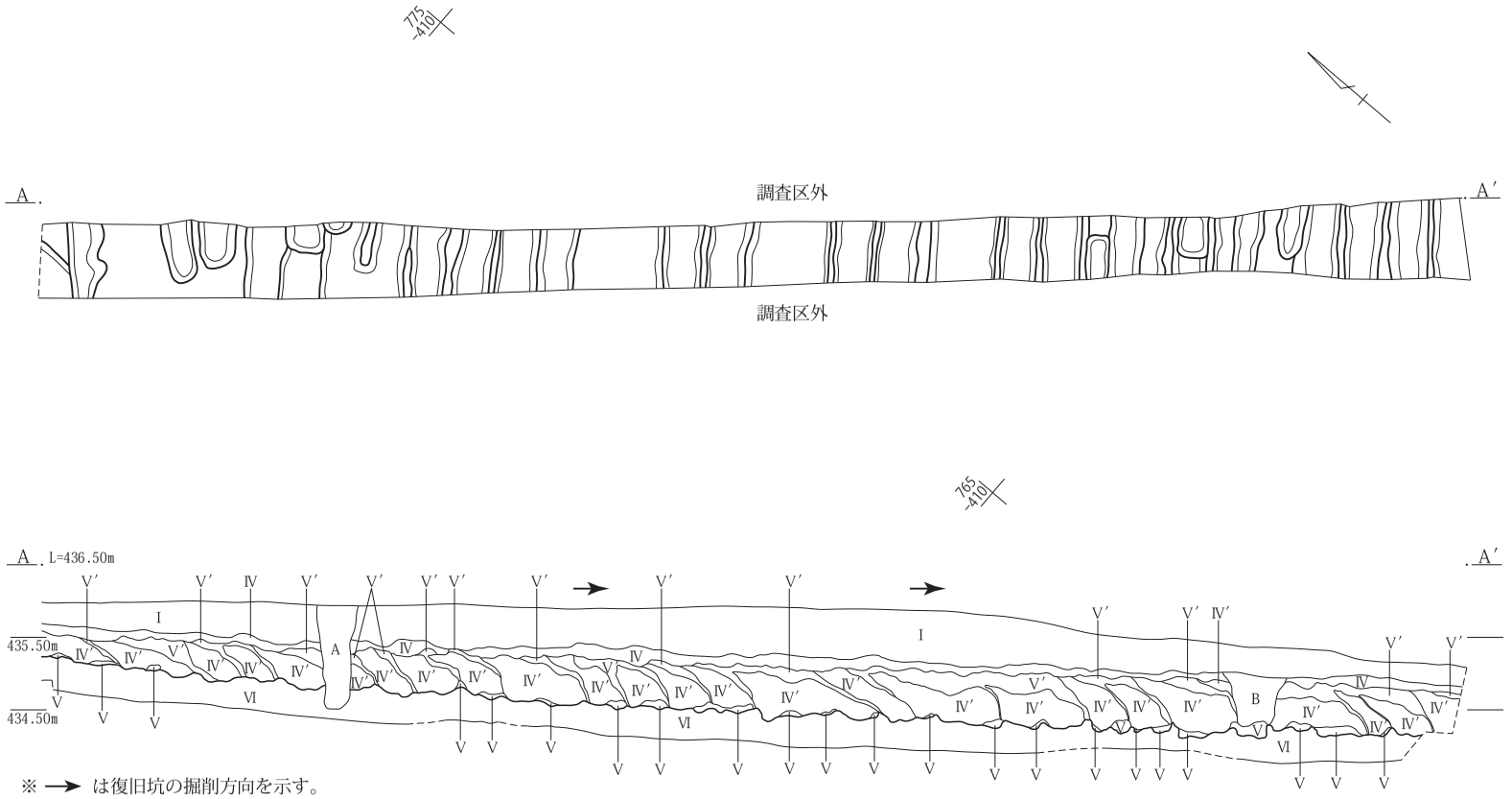
石器

第18図　遺構外出土遺物



第19図　平安時代以降・遺構全体図

１号復旧坑

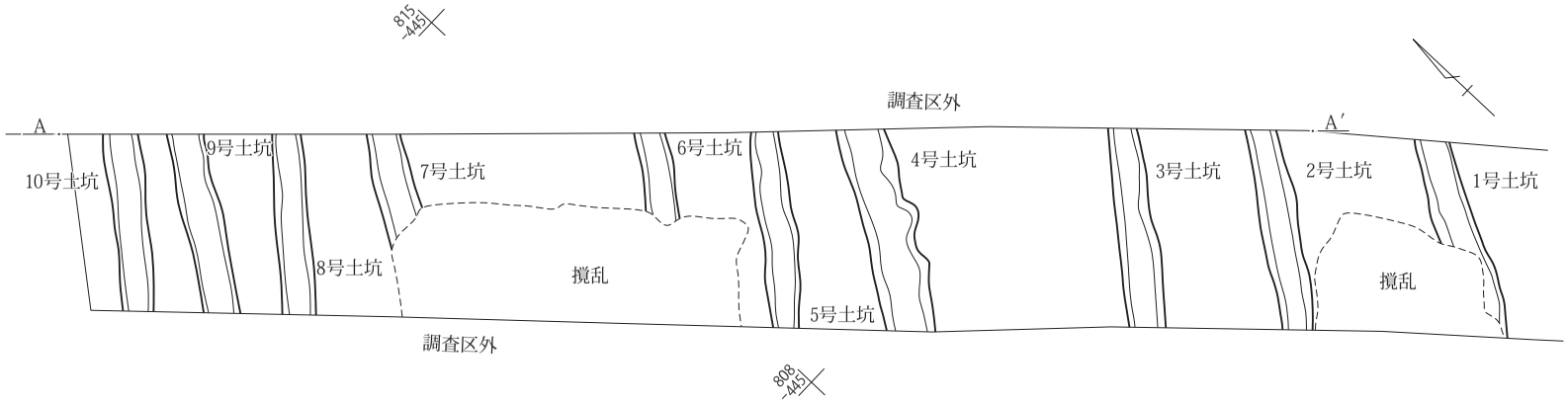


１号復旧坑
Ⅰ　黒褐色土(10YR2/2)　表土、現耕作土。As-A多量混。粘性弱、しまりやや弱。
Ⅳ　黒色土(10YR2/1)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅳ′黒褐色土(10YR2/2)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅴ　褐色土(10YR4/6)　As-B純層。黒褐色土ブロック(小)および黒褐色土を一部層状に混。粘性・しまり極弱。
Ⅴ′褐色土(10YR4/6)　As-B主体。黒褐色土ブロック(小)中量混。粘性・しまり極弱。
Ⅵ　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石多量混。粘性・しまりやや強。
A　黒褐色土(10YR2/2)　As-A・As-B多量混。黒色土ブロック(中～小)少量混。粘性・しまり弱。As-A以降の掘り込み。
B　黒褐色土(10YR2/2)　As-A・As-B多量混。粘性・しまり弱。As-A以前As-B以降の掘り込みか？

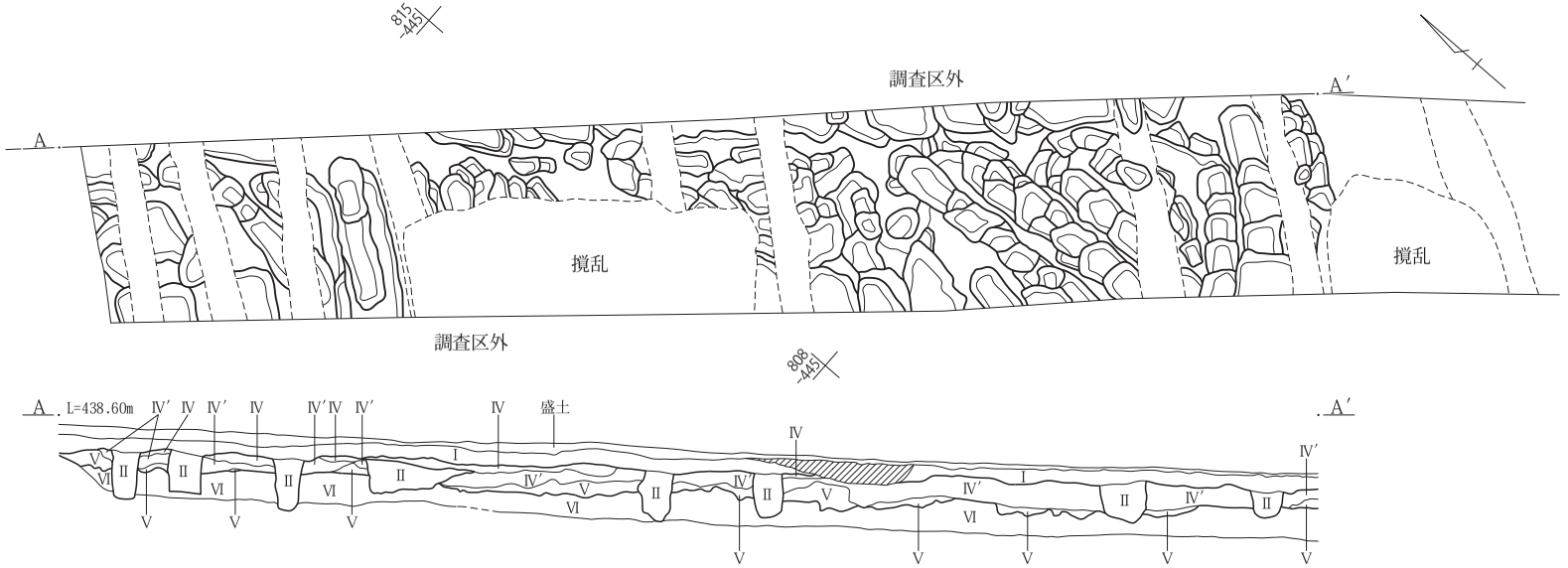
0　1：100　5m

第20図　１区１号復旧坑

２号復旧坑



３号復旧坑

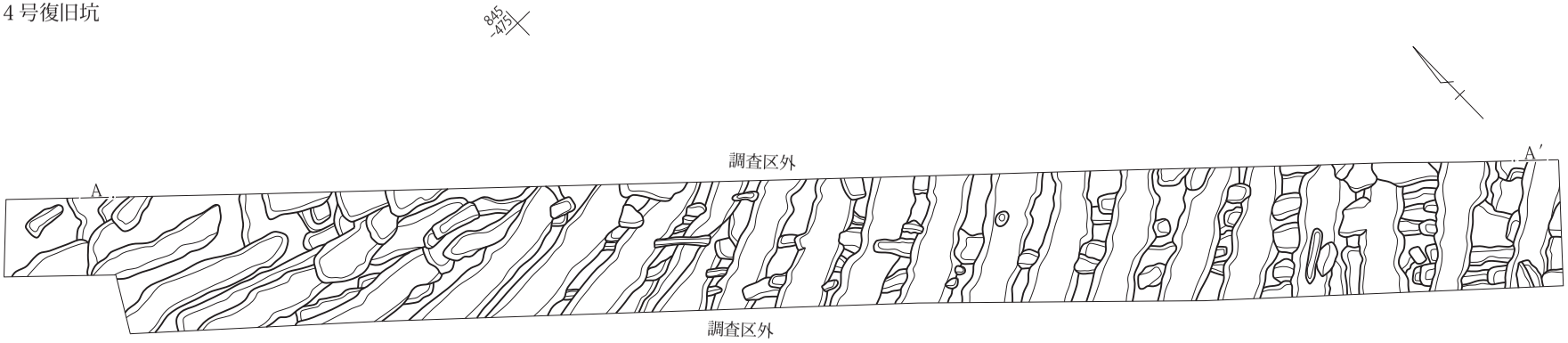


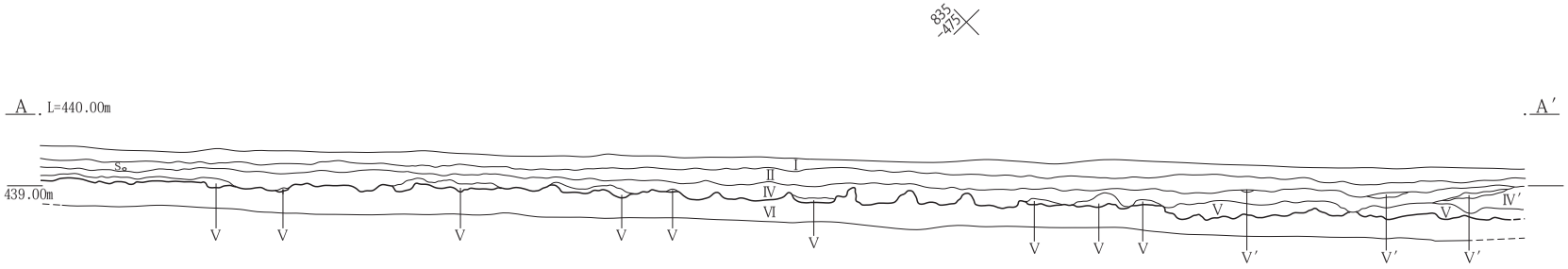
２号・３号復旧坑
Ⅰ　黒褐色土(10YR2/2)　表土、現耕作土。As-A多量混。粘性弱、しまりやや弱。
Ⅱ　黒褐色土(10YR2/2)　As-A多量、黒色土ブロック(大～中)少量混。粘性・しまり弱。
Ⅳ　黒色土(10YR2/1)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅳ′　黒褐色土(10YR2/2)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅴ　褐色土(10YR4/6)　As-B純層。黒褐色土ブロック(小)および黒褐色土を一部層状に混。粘性・しまり極弱。
Ⅵ　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石多量混。粘性・しまりやや強。

0　1：100　5m

第21図　１区２号・３号復旧坑

４号復旧坑

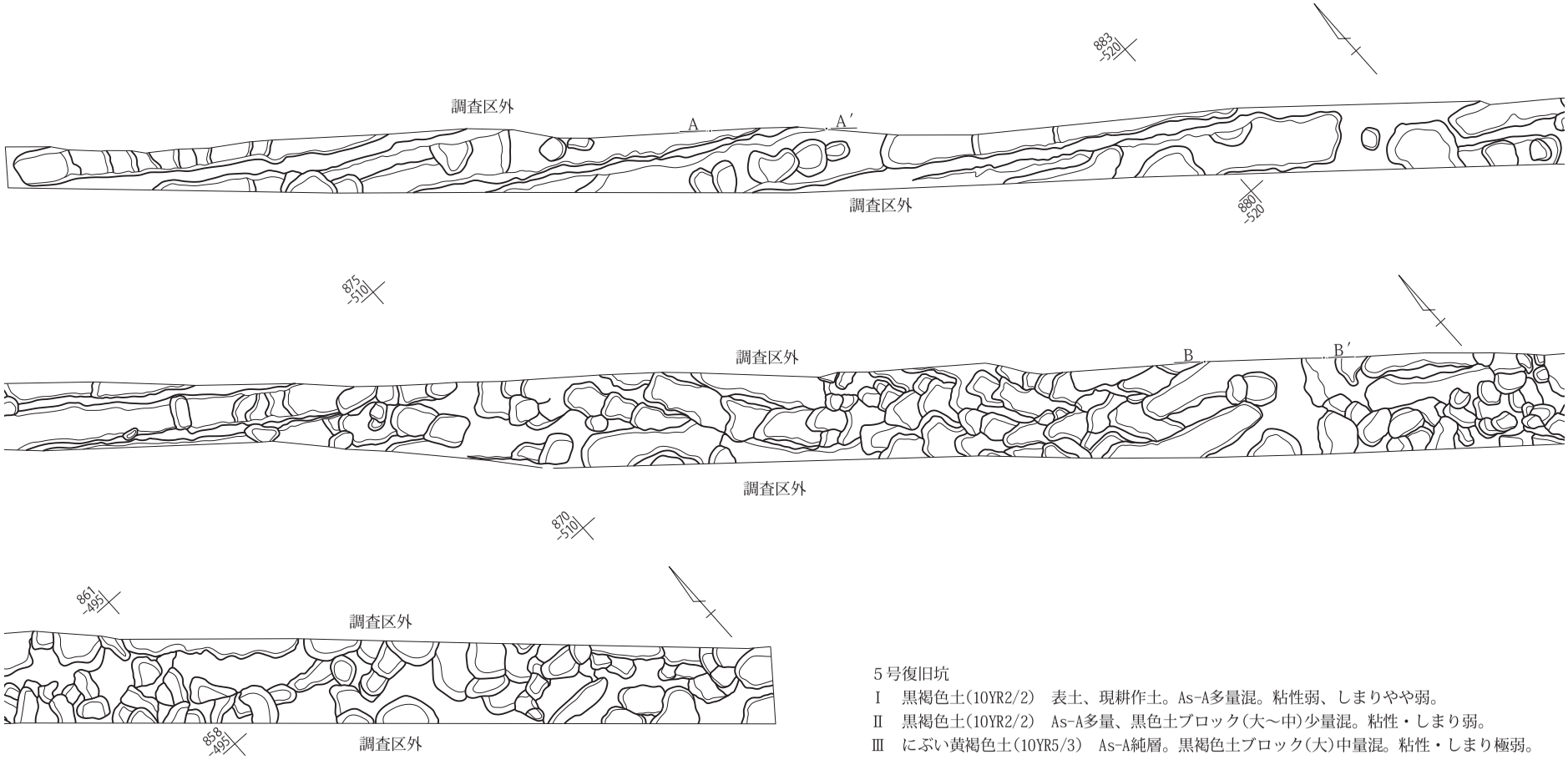


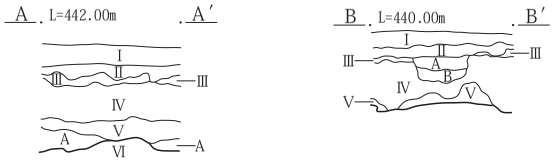


４号復旧坑
Ⅰ　黒褐色土(10YR2/2)　表土、現耕作土。As-A多量混。粘性弱、しまりやや弱。
Ⅱ　黒褐色土(10YR2/2)　As-A多量、黒色土ブロック(大～中)少量混。粘性・しまり弱。
Ⅳ　黒色土(10YR2/1)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅴ　褐色土(10YR4/6)　As-B純層。黒褐色土ブロック(小)および黒褐色土を一部層状に混。粘性・しまり極弱。
Ⅴ′褐色土(10YR4/6)　As-B主体。黒褐色土ブロック(小)中量混。粘性・しまり極弱。
Ⅵ　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石多量混。粘性・しまりやや強。

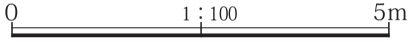
0　1：100　5m

第22図　２区４号復旧坑

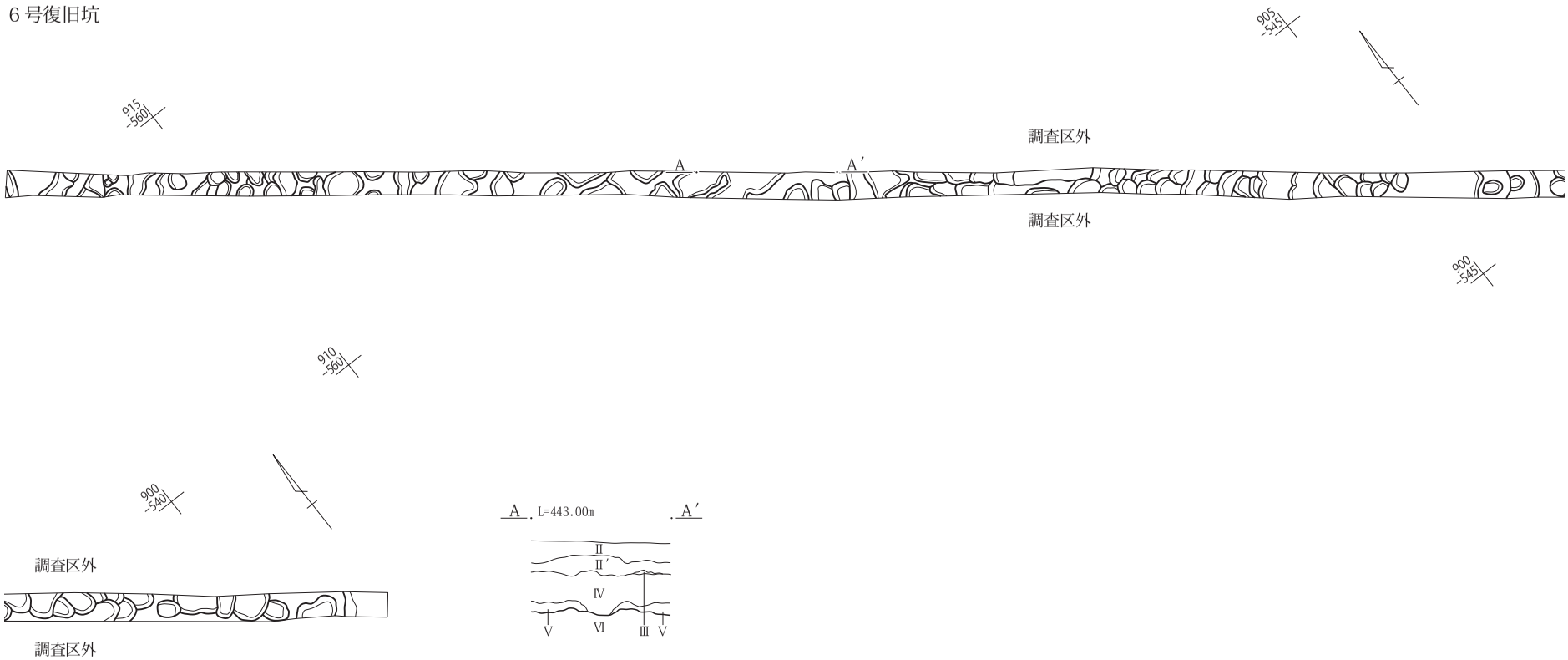




５号復旧坑
Ⅰ　黒褐色土(10YR2/2)　表土、現耕作土。As-A多量混。粘性弱、しまりやや弱。
Ⅱ　黒褐色土(10YR2/2)　As-A多量、黒色土ブロック(大～中)少量混。粘性・しまり弱。
Ⅲ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-A純層。黒褐色土ブロック(大)中量混。粘性・しまり極弱。
Ⅳ　黒色土(10YR2/1)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅴ　褐色土(10YR4/6)　As-B純層。黒褐色土ブロック(小)および黒褐色土を一部層状に混。粘性・しまり極弱。
Ⅵ　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石多量混。粘性・しまりやや強。
A　黒褐色土(10YR2/2)　As-A主体、黒色土ブロック(小)微量混。粘性・しまり弱。
B　黒褐色土(10YR2/2)　As-A多量混。粘性・しまり弱。



第23図　２区５号復旧坑



６号復旧坑
Ⅱ　黒褐色土(10YR2/2)　As-A多量、黒色土ブロック(大～中)少量混。粘性・しまり弱。
Ⅱ′黒褐色土(10YR2/2)　As-A多量、黒色土ブロック(大～中)少量混　粘性・しまり弱
Ⅲ　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　As-A純層。黒褐色土ブロック(大)中量混。粘性・しまり極弱。
Ⅳ　黒色土(10YR2/1)　As-B多量混。粘性・しまり弱。
Ⅴ　褐色土(10YR4/6)　As-B純層。黒褐色土ブロック(小)および黒褐色土を一部層状に混。粘性･しまり極弱。
Ⅵ　黒色土(10YR1.7/1)　黄色軽石多量混。粘性・しまりやや強。

0　1：100　5m

第24図　３区６号復旧坑

第４章　調査成果

第１節　縄文時代

（１）出土遺物について

縄文土器は計590点出土した。大部分が１区１号遺物集中からの出土であった。土器型式は前期中葉の黒浜式土器、有尾式土器、前期後葉の諸磯ａ式土器、諸磯ｂ式土器が確認された。ほかの時期の土器は確認できなかった。

土器型式の検討から、検出された縄文時代の遺跡は、前期中葉から前期後葉の時期に形成されたもので、長期間にわたる通時的な遺跡ではなく比較的短い時間幅のなかで形成された遺跡といえる。

縄文石器は、計33点出土した。凹石や黒曜石製の石鏃、剥片、原石が確認された。黒曜石製の石器は肉眼観察ではあるが、長野県和田峠一帯の黒曜石産地のものを利用した可能性が高い。また、黒曜石製原石は長さが25㎜程度の非常に小さな角礫（ズリ）で、石鏃の素材剥片生産用の原料として遺跡に持ち込まれたと考えられる。

出土点数は少なかったものの、黒曜石製原石（ズリ）の出土によって、原料として採掘された黒曜石のサイズ、採掘後の搬出・流通など、縄文時代前期における中部高地の黒曜石産地と関東地方の消費地をめぐる黒曜石利用の様相を検討できる資料が得られたといえる。

（２）遺構について

縄文時代の遺構は、遺物集中１か所、土坑16基、ピット32基が検出された。

土坑は平面規模が１ｍ以下の小型のものが大部分で、掘り込みの深さも遺構確認面から10～30㎝程度と浅く、覆土も地山の黒色土（Ⅵ層）との区別が難しかった。また、まとまった遺物が出土した土坑もほとんどなかった。これはピットも同様であった。縄文時代に一般的な袋状・円筒状・擂鉢状の大型で深い土坑とは異なっていた。

このことから検出された土坑の多くは、第３章に記載したように人為的に掘削された遺構ではなく自然営為によってシミ状に形成された自然の浅い窪みであった可能性が高いと判定した。

遺跡の性格を正しく評価し報告するためには、まず調査された遺構が人為的な遺構か、あるいは自然地形の痕跡かをもう一度調査所見や記録図面・写真と照合して再検証し、最終的に判定しておくことが必要である。そして、遺構の数量、時代・時期、形状・規模、共伴遺物などの属性に基づき、遺跡形成過程と人間行動を結び付けて総合的に検討し、遺跡の性格を評価しなければならない。

本報告では検出された縄文時代の土坑・ピットの多くは自然地形の痕跡の可能性が高いと判定した。しかし、遺物集中や遺構外の出土遺物が示すように、本遺跡に縄文時代前期の遺跡が残されたこと自体は確実である。竪穴建物や土坑など、明確な遺構を伴う縄文時代前期の集落は今回の調査区の近くに存在していると考えられる。

第２節　平安時代

検出された平安時代の復旧坑（１号・３号～６号復旧坑）は、浅間山噴火による浅間Ｂ軽石（As-B 1108年降灰）で覆われた畑を復旧させるために耕作土を天地返しした遺構である。形成時期はAs-B降灰直後と考えられる。

As-Bの給源火山である浅間山は、本遺跡から直線で北西に約24㎞の近距離に位置するため、降灰直後には相当な量のAs-Bが堆積したと想定される。その後、As-Bは復旧坑の掘削に伴い黒色土の中に撹拌された。このため、実際に積もったAs-Bの層厚は確認できなかった。

復旧坑は、今回の細長い調査範囲の広範囲から検出された。したがって、平安時代の終わり頃、この一帯に大規模な畑が存在し、As-B降灰後にその畑を復旧していたと考えられる。なお、畑を耕作していた人々の集落は確認できなかったが、近くに存在していると考えられる。

平安時代の終わり頃、本遺跡一帯に暮らしていた人々は大規模な畑を営んでいた。そのような中、1108年に発生した浅間山の噴火で畑は火山灰で埋まった。しかし、人々は火山災害に直面しても畑を放棄せず、復旧坑を掘って畑を復旧し生活再建を図ったと考えられる。

今回の調査により、平安時代の土地利用と災害復興の様子を把握でき、安中市松井田地域における地域史復元のための成果が得られたといえる。

遺構一覧表

No	区	遺構番号	時代	X座標	Y座標	平面形状	断面形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)
1	1	1号遺物集中	縄文	39784～39788	-95422～-95426			450	250	20
2	1	1号土坑	縄文	39784	-95421・-95422	円	擂鉢	48	48	20
3	1	2号土坑	縄文	39792・39793	-95429・-95430	円	擂鉢	110	△ 79	34
4	1	3号土坑	縄文	39765・39766	-95405・-95406	不明	擂鉢	△ 103	△ 37	19
5	1	4号土坑	縄文	39772・39773	-95411・-95412	円	筒	70	△ 35	23
6	1	5号土坑	縄文	39775・39776	-95415	不整形	皿	△ 46	46	16
7	1	6号土坑	縄文	39809	-95443	楕円	皿	71	53	17
8	1	7号土坑	縄文	39813・39814	-95445・-95446	円	皿	114	△ 48	19
9	2	8号土坑	縄文	39833・39834	-95466・-95467	不明	不明	△ 95	△ 56	19
10	2	9号土坑	縄文	39833	-95467	円	皿	70	65	20
11	2	10号土坑	縄文	39834・39835	-95467・-95468	長楕円	皿	140	53	17
12	2	11号土坑	縄文	39837・39838	-95472	楕円	擂鉢	74	58	21
13	2	12号土坑	縄文	39840・39841	-95475・-95476	楕円	擂鉢	70	67	14
14	2	13号土坑	縄文	39841・39842	-95476	円	皿	62	60	19
15	2	14号土坑	縄文	39844	-95479	楕円	擂鉢	76	63	21
16	2	15号土坑	縄文	39845	-95480・-95481	円	筒	54	51	30
17	2	16号土坑	縄文	39846	-95480・-95481	円	皿	84	44	20
18	欠番	1号ピット	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番
19	1	2号ピット	縄文	39785・39876	-95424	円	皿	29	24	16
20	1	3号ピット	縄文	39786	-95424・-95425	円	擂鉢	51	51	21
21	1	4号ピット	縄文	39789	-95425・-95426	楕円	擂鉢	35	31	20
22	1	5号ピット	縄文	39795	-95431	円	筒	46	46	32
23	1	6号ピット	縄文	39796	-95431	楕円	筒	48	41	26
24	1	7号ピット	縄文	39799	-95435	円	皿	43	41	18
25	1	8号ピット	縄文	39763	-95403	楕円	筒	24	17	37
26	1	9号ピット	縄文	39564・39565	-95405	円	皿	35	32	11
27	1	10号ピット	縄文	39766	-95406・-9407	楕円	擂鉢	35	25	16
28	1	11号ピット	縄文	39766	-95407	楕円	皿	33	21	13
29	1	12号ピット	縄文	39769・39770	-95409・-95410	円	皿	40	40	16
30	1	13号ピット	縄文	39771・39772	-95411	楕円	擂鉢	36	△ 28	21
31	1	14号ピット	縄文	39771	-95411・-95412	円	擂鉢	52	△ 29	16
32	1	15号ピット	縄文	39776	-95414・-95415	楕円	擂鉢	△ 30	22	12
33	1	16号ピット	縄文	39774	-95414	円	擂鉢	46	△ 21	13
34	1	17号ピット	縄文	39806	-95440	円	皿	59	45	13
35	1	18号ピット	縄文	39801	-95442	円	皿	47	△ 45	12
36	1	19号ピット	縄文	39807・39808	-95442	円	擂鉢	57	46	14
37	1	20号ピット	縄文	39809	-95441・-95442	円	擂鉢	52	45	24
38	1	21号ピット	縄文	39808	-95443・-95444	楕円	皿	55	40	8
39	1	22号ピット	縄文	39811・39812	-95444・-95445	楕円	擂鉢	41	26	16
40	1	23号ピット	縄文	39813	-95446	楕円	擂鉢	52	42	18
41	2	24号ピット	縄文	39834	-95468・-95469	楕円	皿	54	40	13
42	2	25号ピット	縄文	39835	-95469	楕円	皿	41	34	14
43	2	26号ピット	縄文	39836	-95469・-5470	楕円	皿	45	36	18
44	2	27号ピット	縄文	39837	-95472・-95473	楕円	皿	46	36	13
45	2	28号ピット	縄文	39837・39838	-95473	楕円	皿	45	36	15
46	2	29号ピット	縄文	39839	-95473・-95474	楕円	擂鉢	43	29	21
47	2	30号ピット	縄文	39839・39840	-95474	円形	擂鉢	55	55	20
48	2	31号ピット	縄文	39845	-95480	楕円	擂鉢	35	28	10
49	2	32号ピット	縄文	39845	-95480	円形	擂鉢	25	24	10
50	2	33号ピット	縄文	39844・39845	-95480	円形	皿	44	37	10
51	1	1号復旧坑	平安	39761～39777	-95402～-95416			1976	108	16
52	1	2号復旧坑	中世	39801～39817	-95436～-95450			1852	268	73
53	1	3号復旧坑	平安	39801～39817	-95436～-95450			1852	268	15
54	2	4号復旧坑	平安	39831～39848	-95465～-95482			2312	196	15
55	2	5号復旧坑	平安	39852～39893	-95487～-95534			6160	150	18
56	3	6号復旧坑	平安	39896～39915	-95538～-95562			3080	32	8

△は重複や調査区外で実際の大きさが不明なもの

1区1号遺物集中

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL.14	1	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂、細礫、片岩、繊維/ふつう/	横位平行沈線を複数段施す。地文にRL縄文を横位施文。	有尾式
第12図 PL.14	2	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂、細礫/良好/	連続爪形文による菱形状モチーフを施す。	有尾式
第12図 PL.14	3	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂、繊維/ふつう/	２条の平行沈線による菱形状モチーフを施す。	有尾式
第12図 PL.14	4	縄文土器 深鉢	口縁部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR、RL縄文を羽状施文する。補修孔あり。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	5	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	6	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	RL縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	7	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	8	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	RL縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	9	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	附加条１種LR＋L縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	10	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	11	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	12	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、細礫、繊維/ふつう/	無節Rl縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	13	縄文土器 深鉢	底部破片					細砂、繊維/ふつう/	RL縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第12図 PL.14	14	縄文土器 深鉢	口縁部破片					細砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	15	縄文土器 深鉢	口縁部破片					細砂/良好/	口縁が緩く外反。異条RL縄文を横位施文する。内面ミガキ整形。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	16	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	17	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂/良好/	くの字状に緩く外屈する。屈曲部に横位平行沈線をめぐらして文様帯を区画、斜行する平行沈線を施す。米字文か。文様帯内、地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	18	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂/良好/	０段多条LR縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	19	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂/良好/	０段多条LR縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	20	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂/良好/	０段多条LR縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	21	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂/ふつう/	０段多条LR縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	22	縄文土器 深鉢	底部破片					粗砂/良好/	０段多条LR縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	23	縄文土器 深鉢	口縁部破片					細砂/良好/	口唇部肥厚。横位、鋸歯状の条線を施す。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	24	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂/良好/	横位、波状の条線を交互多段に施す。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	25	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂、輝石/ふつう/	横位条線を複数段施す。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	26	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂、輝石/良好/	刷毛目状の条線による木葉状文を多段に施す。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	27	縄文土器 深鉢	口辺部破片					粗砂/良好/	横位波状の条線を複数段施す。	諸磯ａ式
第12図 PL.14	28	縄文土器 深鉢	口辺部破片					細砂/良好/	平行沈線を横位多段に施す。	諸磯ａ式
第12図 PL.15	29	縄文土器 深鉢	口縁部破片					粗砂/良好/	口縁下に３条の浮線をめぐらし、以下の文様帯内に浮線による弧状モチーフを施す。	諸磯ｂ式
第12図 PL.15	30	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、細礫/良好/	斜位、弧状の浮線を施す。地文にLR縄文を横位施文。	諸磯ｂ式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL.15	31	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂/良好/	横位浮線をめぐらして文様帯を区画、文様帯内に浮線による対弧状モチーフを施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ｂ式
第12図 PL.15	32	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂/良好/	複数条の浮線を横位帯状にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ｂ式
第12図 PL.15	33	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂/ふつう/	横位３条の浮線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ｂ式
第12図 PL.15	34	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、石英/良好/	横位２条の浮線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	35	縄文土器 深鉢	口辺部破片					粗砂、輝石/ふつう/	横位連続爪形文をめぐらして口縁部文様帯を区画、連続爪形文による菱形状モチーフを施し､内部に渦巻状文を配す。内面ミガキ整形。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	36	縄文土器 深鉢	胴部破片						35と同一個体。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	37	縄文土器 深鉢	口辺部破片					粗砂、輝石/良好/	連続爪形文による菱形状モチーフを施す。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	38	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好/	横位連続爪形文をめぐらして文様帯を区画、連続爪形文による三角形状モチーフを施し、内部に縦位２条の連続爪形文を配す。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	39	縄文土器 深鉢	胴部破片					細砂、輝石/良好/	弧状の連続爪形文を施す。爪形文間に斜位刻みを施文。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	40	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好/	連続爪形文を横位多段に施す｡爪形文間に斜位刻みを施文。内面ミガキ整形。	諸磯ｂ式
第13図 PL.15	41	縄文石器 石鏃		長 16.0 幅 10.0		厚 3.0 重 0.4		黒曜石	凹基無茎鏃、右脚部欠損	
第13図 PL.15	42	縄文石器 剥片		長 44.0 幅 17.0		厚 9.0 重 5.6		黒曜石	小型角礫(ズリ)を素材、礫面が全体に残る	
第13図 PL.15	43	縄文石器 凹石		長 105.0 幅 75.0		厚 36.0 重 393.1		溶結凝灰岩	偏平楕円礫を素材、両面中央部にくぼみと摩耗痕	
第13図 PL.15	44	縄文石器 凹石		長 94.0 幅 55.0		厚 39.0 重 333.4		花崗岩	偏平楕円礫を素材、両面中央に凹み、側縁に摩耗痕	
第13図 PL.15	45	縄文石器 凹石		長 115.0 幅 68.0		厚 38.0 重 499.0		粗粒輝石安山岩	偏平楕円礫を素材、両面中央部に凹みと摩耗痕、右側面に敲打痕	

1区2号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.15	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第14図 PL.15	2	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					細砂、輝石/良好/	口縁が緩く外反。RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第14図 PL.15	3	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第14図 PL.15	4	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第14図 PL.15	5	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式
第14図 PL.15	6	縄文石器 原石	埋土	長 25.0 幅 24.0		厚 11.0 重 5.5		黒曜石	小型角礫(ズリ)を素材、端部に剥離痕	

2区8号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.16	7	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂、細礫、繊維/ふつう/	LR縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式

2区11号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15図 PL.16	1	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式

2区16号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15図 PL.16	2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					粗砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯ａ式

1区3号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図 PL.16	1	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第16図 PL.16	2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第16図 PL.16	3	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式

1区4号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図 PL.16	4	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	複節RLR縄文を横位施文する。	諸磯a式

2区30号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図 PL.16	1	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第18図 PL.16	1	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片					細砂、赤色粒、繊維/良好/	口縁下にコンパス文をめぐらす。	黒浜式
第18図 PL.16	2	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					粗砂、繊維/ふつう/	斜行する連続爪形文を施す。地文にRL縄文を横位施文。	黒浜式
第18図 PL.16	3	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片					細砂、繊維/ふつう/	波状口縁。口縁に沿って連続爪形文を施す。	有尾式
第18図 PL.16	4	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	横位平行沈線をめぐらす。	黒浜・有尾式
第18図 PL.16	5	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	附加条1種RL＋r縄文を横位施文する。	黒浜・有尾式
第18図 PL.16	6	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					細砂、細礫、繊維/ふつう/	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第18図 PL.16	7	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					細砂、繊維/ふつう/	LR、RL縄文を羽状施文する。	黒浜・有尾式
第18図 PL.16	8	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片					細砂/ふつう/	波状口縁。口縁に沿って連続爪形文を複数段施す。内面ミガキ整形。	諸磯a式
第18図 PL.16	9	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片					粗砂/良好/	円形竹管刺突を縦位に施す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯a式
第18図 PL.16	10	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片					粗砂/良好/	口縁が緩く外反。RL縄文を横位施文する。内面ミガキ整形。	諸磯a式
第18図 PL.16	11	縄文土器 深鉢	2面 口縁部破片					細砂/ふつう/	RL縄文を横位施文する。口縁に小突起を付す。	諸磯a式
第18図 PL.16	12	縄文土器 深鉢	2面 口辺部破片					細砂/良好/	縦位、斜位の平行沈線を施す。米字文か。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯a式
第18図 PL.16	13	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					細砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第18図 PL.16	14	縄文土器 深鉢	2面 口辺部破片					細砂/良好/	円形竹管刺突を縦位に施す。地文にRL縄文を横位、斜位施文。	諸磯a式
第18図 PL.16	15	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					粗砂、輝石/良好/	RL縄文を横位施文する。内面ミガキ整形。	諸磯a式
第18図 PL.16	16	縄文土器 深鉢	2面 底部破片					細砂/良好/	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第18図 PL.16	17	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好/	複数条の浮線を横位帯状にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第18図 PL.16	18	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					細砂/ふつう/	複数条の浮線を横位帯状にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第18図 PL.16	19	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					粗砂、赤色粒/良好/	横位、弧状の浮線、円形竹管刺突を施す。	諸磯b式
第18図 PL.16	20	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/ふつう/	横位連続爪形文をめぐらして文様帯を区画区画、連続爪形文による縦位、渦巻状文を施す。	諸磯b式
第18図 PL.16	21	縄文土器 深鉢	2面 胴部破片					粗砂、細礫、輝石/良好/	平行沈線による斜格子目文を施す。	諸磯b式
第18図 PL.16	22	縄文石器 石鏃	2面	長 15.0 幅 13.0	厚 3.0 重 0.8			黒曜石	凹基無茎鏃	
第18図 PL.16	23	縄文石器 原石	2面	長 25.0 幅 24.0	厚 12.0 重 6.0			黒曜石	小型角礫(ズリ)を素材	

石器一覧表

No	区	遺構番号	取上No	器種	石材	点数	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	図番号
1	1	1号遺物集中	25	凹石	花崗岩	1	94	55	39	333.4	13図44
2	1	1号遺物集中	31	凹石	粗粒輝石安山岩	1	115	68	38	499.0	13図45
3	1	1号遺物集中	50	凹石	溶結凝灰岩	1	105	75	36	383.1	13図43
4	1	2号土坑		原石	黒曜石	1	25	24	11	5.5	14図6
5	1	1区遺構外		原石	黒曜石	1	25	24	12	6.0	18図23
6	1	1区遺構外		石鏃	黒曜石	1	15	13	3	0.8	18図22
7	1	1号遺物集中		石鏃	黒曜石	1	16	10	3	0.4	13図41
8	1	1区遺構外		敲石	粗粒輝石安山岩	1	61	35	39	170.2	未掲載
9	1	2号土坑		二次加工剥片	珪質頁岩	1	49	51	10	22.3	未掲載
10	1	1区遺構外		二次加工剥片	黒色頁岩	1	64	26	8	21.4	未掲載
11	2	8号土坑		二次加工剥片	黒曜石	1	20	15	6	1.9	未掲載
12	3	6号土坑		二次加工剥片	黒色安山岩	1	72	46	17	64.2	未掲載
13	1	1号遺物集中	17	剥片	黒曜石	1	44	17	9	5.6	13図42
14	1	1区遺構外		剥片	黒色頁岩	2				29.7	未掲載
15	1	1区遺構外		剥片	黒曜石	3				6.4	未掲載
16	1	3号ピット		剥片	黒曜石	1				0.4	未掲載
17	1	4号土坑		剥片	黒曜石	1				0.4	未掲載
18	1	7号土坑		剥片	溶結凝灰岩	1				9.2	未掲載
19	1	1区遺構外		剥片	細粒輝石安山岩	2				51.1	未掲載
20	1	1区遺構外		剥片	流紋岩	1				0.9	未掲載
21	2	2区遺構外		剥片	黒色頁岩	2				35.6	未掲載
22	2	31号ピット		剥片	黒曜石	1				2.9	未掲載
23	2	2区遺構外		剥片	細粒輝石安山岩	4				106.5	未掲載
24	3	3区遺構外		剥片	黒曜石	2				2.6	未掲載
＊遺構別の剥片の点数と重量は石材ごとに合計を示した					合計	33				1,759.5	

写 真 図 版

1　１区北側２面全景（北西から）

2　２区北側３面全景（南東から）

PL.2

1　1区北側２面全景(南東から)

2　1区南側２面全景(南東から)

3　1区北側東壁セクション(南東から)

4　1区南側東壁セクション(西から)

5　２区北側As-B下全景(南東から)

6　２区南側２面全景(北西から)

7　２区南側東壁セクション(１)(南から)

8　２区南側東壁セクション(２)(南から)

1　３区As-B下全景(北西から)

2　３区As-B下全景(南東から)

3　調査風景(北から)

4　１区南側東壁セクション(南から)

5　２区南側東壁セクション(南から)

6　３区東壁セクション(南から)

7　１区１号トレンチセクション(１)(南から)

8　１区１号トレンチセクション(２)(南から)

PL.4

1　1区1号遺物集中全景(北西から)

2　1区1号遺物集中セクション(南東から)

3　1区1号遺物集中遺物出土状態(1)(北から)

4　1区1号遺物集中遺物出土状態(2)(北から)

5　1区1号遺物集中遺物出土状態(3)(北から)

1　1区1号土坑全景(北から)

2　1区1号土坑セクション(西から)

3　1区2号土坑全景(東から)

4　1区2号土坑セクション(東から)

5　1区3号土坑全景(西から)

6　1区3号土坑セクション(北西から)

7　1区4号土坑全景(西から)

8　1区4号土坑セクション(西から)

9　1区5号土坑全景(西から)

10　1区5号土坑セクション(北から)

11　1区6号土坑全景(南から)

12　1区6号土坑セクション(南から)

13　1区7号土坑全景(西から)

14　1区7号土坑セクション(西から)

15　2区8号土坑全景(北から)

PL.6

1　２区８号土坑セクション（北から）

2　２区９号土坑全景（東から）

3　２区９号土坑セクション（西から）

4　２区10号土坑全景（南西から）

5　２区10号土坑セクション（南西から）

6　２区11号土坑全景（南から）

7　２区11号土坑セクション（西から）

8　２区12号土坑全景（南から）

9　２区12号土坑セクション（西から）

10　２区13号土坑全景（南から）

11　２区13号土坑セクション（西から）

12　２区14号土坑全景（南から）

13　２区14号土坑セクション（西から）

14　２区15号土坑全景（東から）

15　２区15号土坑セクション（東から）

1　２区16号土坑全景(南から)

2　２区16号土坑セクション(南から)

3　１区北側２面全景(北西から)

4　１区２号ピット全景(東から)

5　１区２号ピットセクション(西から)

6　１区３号ピット全景(東から)

7　１区３号ピットセクション(西から)

8　１区４号ピット全景(西から)

9　１区４号ピットセクション(西から)

10　１区５号ピット全景(東から)

11　１区５号ピットセクション(西から)

12　１区６号ピット全景(東から)

13　１区６号ピットセクション(西から)

14　１区７号ピット全景(北から)

15　１区７号ピットセクション(南から)

PL.8

1　1区8号ピット全景(南東から)

2　1区8号ピットセクション(西から)

3　1区9号ピット全景(南から)

4　1区9号ピットセクション(北から)

5　1区10号・11号ピット全景(南から)

6　1区10号ピットセクション(南から)

7　1区11号ピットセクション(南から)

8　1区12号ピット全景(南から)

9　1区12号ピットセクション(南西から)

10　1区13号ピット全景(南西から)

11　1区13号ピットセクション(西から)

12　1区14号ピット全景(南東から)

13　1区14号ピットセクション(東から)

14　1区15号ピット全景(南西から)

15　1区15号ピットセクション(西から)

1　1区16号ピット全景(東から)

2　1区16号ピットセクション(東から)

3　1区17号ピット全景(南から)

4　1区17号ピットセクション(西から)

5　1区18号ピット全景(東から)

6　1区18号ピットセクション(東から)

7　1区19号ピット全景(西から)

8　1区19号ピットセクション(西から)

9　1区20号ピット全景(西から)

10　1区20号ピットセクション(西から)

11　1区21号ピット全景(南から)

12　1区21号ピットセクション(南から)

13　1区22号ピット全景(南から)

14　1区22号ピットセクション(南から)

15　1区23号ピット全景(西から)

PL.10

1　1区23号ピットセクション(西から)

2　2区24号ピット全景(南から)

3　2区24号ピットセクション(南から)

4　2区25号ピット全景(南から)

5　2区25号ピットセクション(西から)

6　2区26号ピット全景(西から)

7　2区26号ピットセクション(南から)

8　2区27号ピット全景(東から)

9　2区27号ピットセクション(東から)

10　2区28号ピット全景(東から)

11　2区28号ピットセクション(東から)

12　2区29号ピット全景(東から)

13　2区29号ピットセクション(南から)

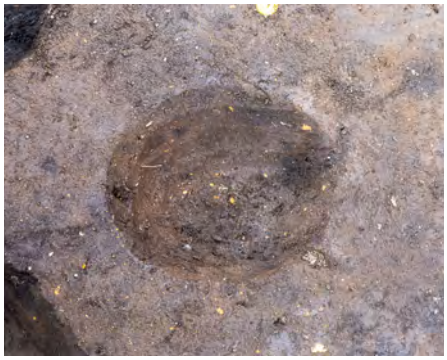
14　2区30号ピット全景(東から)

15　2区30号ピットセクション(西から)

1　２区31号ピットセクション(西から)

2　２区31号ピット全景(南から)

3　２区32号ピット全景(南東から)



4　２区32号ピットセクション(南から)

5　２区33号ピット全景(東から)

6　２区33号ピットセクション(東から)

7　１区南側２面全景(南東から)

8　３区全景(南東から)

9　調査風景(１)(北西から)

10　調査風景(２)(南東から)

PL.12

1　1区1号復旧坑As-B下全景（1）（南から）

2　1区1号復旧坑As-B下全景（2）（南から）

3　1区1号復旧坑As-B下全景（3）（南から）

4　1区1号復旧坑As-B下全景（4）（南から）

5　1区2号復旧坑5号土坑（南から）

6　1区2号復旧坑8号土坑（南から）

7　1区2号復旧坑9号土坑（南から）

8　1区2号復旧坑10号土坑（南から）

1　1区3号復旧坑As-B下全景(1)(北西から)

2　1区3号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)

3　2区4号復旧坑As-B下全景(1)(南東から)

4　2区4号復旧坑As-B下全景(2)(南東から)

5　2区5号復旧坑全景(1)(北西から)

6　2区5号復旧坑全景(2)(南東から)

7　3区6号復旧坑全景(南東から)

8　3区東壁セクション(南から)

PL.14

有尾式

1

2

3

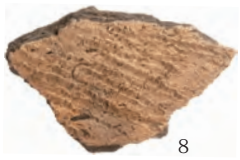
黒浜・有尾式

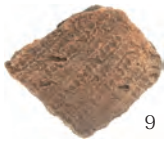
4

5

6

7


8


9

10

11

12

13

諸磯ａ式

14

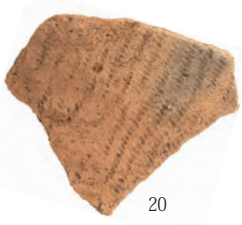
15

16

17

18

19


20

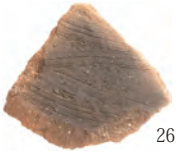
21

22

23

24

25


26

27

28

1区1号遺物集中出土遺物（1）

諸磯ｂ式

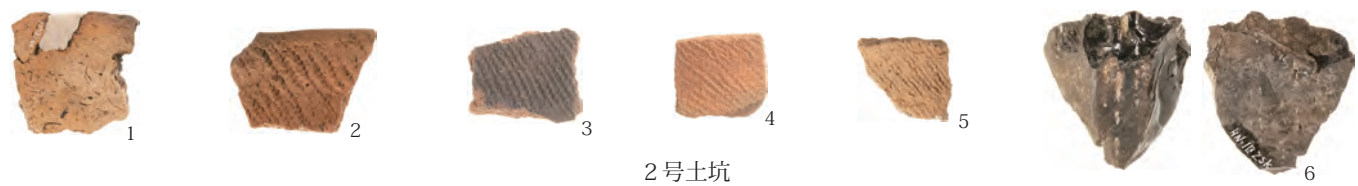
石器

1区1号遺物集中出土遺物（2）

黒浜・有尾式

諸磯ａ式

石器



2号土坑

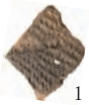
1区1号遺物集中（2）・2号土坑出土遺物

PL.16

黒浜・有尾式

２区８号土坑

諸磯ａ式

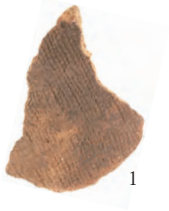


２区11号土坑

諸磯ａ式

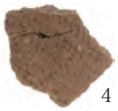
２区16号土坑

諸磯ａ式



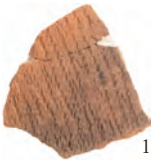
１区３号ピット

諸磯ａ式



１区４号ピット

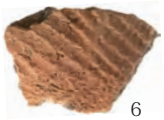
諸磯ａ式



２区30号ピット

黒浜式

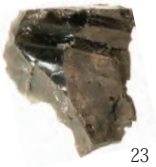
黒浜・有尾式



諸磯ａ式

諸磯ｂ式

石器



遺構外

土坑・ピット・遺構外出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	ひじしおなかはらいせき
書　　名	土塩中原遺跡
副 書 名	(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	―
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	728
編著者名	関口博幸
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230719
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ひじしおなかはらいせき
遺 跡 名	土塩中原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあんなかしまついだまちひじしお
遺跡所在地	群馬県安中市松井田町土塩
市町村コード	10211
遺跡番号	U0039
北緯(世界測地系)	363544
東経(世界測地系)	1387694
調査期間	20220401-20220430
調査面積	775.56
調査原因	歩道整備
種　　別	生産、集落
主な時代	縄文、平安
遺跡概要	縄文－遺物集中１＋土坑16＋ピット32／平安－復旧坑５／中世－復旧坑１
特記事項	縄文時代では遺物集中や土坑が検出され前期の土器や石器が多数出土した。平安時代では浅間山の噴火による火山灰で被災した畑の復旧坑が検出された。
要　　約	縄文時代については黒浜式・有尾式・諸磯ａ式・諸磯ｂ式土器が出土し、前期中葉から前期後葉の時期に形成された遺跡であることが判明した。平安時代については浅間Ｂ軽石で被災した畑を復旧させるために、耕作土を天地返しした復旧坑が広範囲で検出され火山災害からの復興の様子が確認できた。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第728集

土塩中原遺跡

(一)長久保郷原線(上増田工区)社会資本総合整備(防災・安全)
(交安・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和５(2023)年７月14日　印刷
令和５(2023)年７月19日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上毎印刷工業株式会社